

# 飯田市議会要覧

平成 28 年 6 月

飯田市議会事務局

# 飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいにはげましあい、手を取りあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年6月21日 制定)

# 目次

<b>I 沿革</b>	
1 沿革	3
2 人口と世帯の推移	5
3 市議会議員選挙執行状況	6
4 歴代市議会議員	
(1) 歴代議長	7
(2) 歴代副議長	8
(3) 歴代総務常任委員会正副委員長	9
(4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長	10
(5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長	11
(6) 歴代建設環境常任委員会正副委員長	12
(7) 歴代議会運営委員会正副委員長	13
(8) 歴代監査委員（議会選出）	14
(9) 歴代事務局長	15
(10) 歴代市議会議員	16
<b>II 市議会の構成</b>	
1 構成	22
2 議員名簿	24
3 正副議長及び各委員会委員名簿	25
4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	25
5 議会選出の各種委員等	26
6 各会派及び各会派の代表者氏名	27
<b>III 1年間の活動</b>	
1 市議会の活動状況	
(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	28
(2) 議会開会状況	28
(3) 議会審議状況	29
(4) 付議事件及び議決結果一覧表	30
(5) 議会において執行した選挙・選任等	43
(6) 委員会活動開催状況	43
(7) 請願陳情	44
(8) 定例会の質問事項	46
(9) 本会議等傍聴状況	78
2 報酬・その他	79
3 定期刊行物	80
4 市議会会議録	80
5 議会事務局の事務分掌	81
<b>IV 市議会のあゆみ</b>	82

## 参考資料

◎ 平成28年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	資 1
◎ 飯田市行政組織機構図	資 9
◎ 職員の定数	資 11
◎ 都市宣言	資 12
◎ 市制提携に関する覚書	資 16
◎ 友好都市締結	資 16
◎ 飯田市の主要年表	資 17
◎ 飯田市自治基本条例	資 28

# I 沿革

## 1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を發し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。伊那盆地の河岸段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に103,712人（平成28年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある文化や産業活動が幅広く展開されている。

飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC—天龍峡IC間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

さらに、平成39年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表された。三遠南信地域連携ビジョン等ともあいまって、激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として本市の果たす役割が期待される。

## 1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決、以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の近年の取組として最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月、政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月20日には、市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足、同会議は条例の制定に向けた研究を行い、同年12月28日にその成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。市議会は翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、2度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、自治基本条例の案を平成18年9月21日に議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートし、開かれた議会を実現するための「議会活動報告会」も同年度から開催され、「議会報告会」と名称変更して継続している。平成23年1月から、条例中の「議会の役割」について議会による検証が開始され、平成24年3月には、これまでの検討を踏まえ「議会改革・運営ビジョン」を取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置した。議会改革推進会議では、1年をかけ課題として整理した29項目すべてを検討し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として取りまとめた。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置している。

なお、飯田市自治基本条例への取組については、平成27年度末までに166団体、1,659人が視察に訪れている。



人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

## 2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km<sup>2</sup>)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和61. 4	26,469	92,096	43,709	48,387	〃
昭和62. 4	26,573	92,179	43,783	48,396	〃
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

### 特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併
- ・平成22年 2月 : 天竜村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

### 3 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期满了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期满了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期满了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期满了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期满了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期满了一般選挙
昭和60年4月21日	任期满了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期满了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期满了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期满了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期满了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期满了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期满了一般選挙
平成25年4月21日	任期满了一般選挙

#### 4 歴代市議会議員

##### (1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
		昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
5代	林 昌平	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
		平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
11代	今村 八束	平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
12代	小林 利一	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
		平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
13代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
14代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
15代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
16代	上澤 義一	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
17代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
18代	上澤 義一	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
19代	林 幸次	平成27. 5. 12	
20代	木下 克志		

## (2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	

## (3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	榊田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 莊一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4 常任委員会複数所属から3 常任委員会単独所属に移行

## (5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (6) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (7) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	

## (8) 歴代監査委員（議会選出）

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	

(9) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	

(10) 歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日まで 8選挙区 定数36）

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日まで 定数3）

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日まで9選挙区 定数28）

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5）

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日まで 定数1）

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日まで 定数1）

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日まで 全市1選挙区 定数36）

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榊田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省

前島 成光 熊谷 武志 斉藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	斉藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
斉藤 為良	新井 安男	市村 保人	斉藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	斉藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
斉藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友畝	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日

まで 定数31)

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

へ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

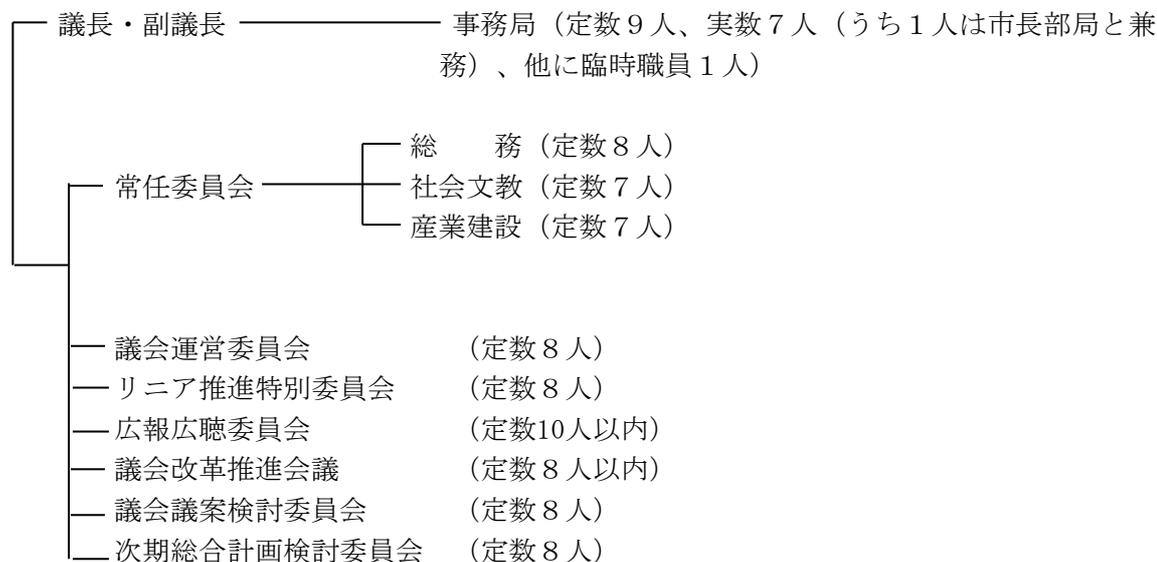
湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

## II 市議会の構成（平成28年5月24日現在）

### 1 構成



※平成25年4月28日から3常任委員会単独所属体制

#### (1) 常任委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 総務委員会 総務部、総合政策部、リニア推進部、市民協働環境部、市長公室、危機管理室、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会 健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会 産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項

##### イ 任期 2年

#### (2) 議会運営委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

##### イ 任期 2年

#### (3) リニア推進特別委員会

##### ア 所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

##### イ 任期 2年

#### (4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

##### ア 所管事項

- (ア) 議会広報誌の編集及び発行に関する事項

- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
- (ウ) インターネットを利用した会議公開に関する事項
- (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
- (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
- (カ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
- (キ) その他議会の広報に関する事項

イ 任期 2年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成22年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

(6) 議会議案検討委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

「議員提出議案の取扱いについての申合せ」に基づき、「地酒で乾杯を推進する条例」（仮称）の制定を図るため、研究と理解を深め、議案作成

イ 任期 平成28年2月16日から議案を上程するまで

(7) 次期総合計画検討委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

次期総合計画の策定に関し、調査、研究及び協議

イ 任期 平成28年3月18日から協議終了まで

(8) 議員

ア 任期 平成25年4月28日から平成29年4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 23人

(ア) 党派別

日本共産党 3人      公明党 3人      無所属 17人

(イ) 会派別

会派のぞみ 11人      会派みらい 3人      公明党 3人

市民パワー 3人      日本共産党 3人

## 2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	自宅電話等
1	竹村 圭史	会派のぞみ	1	〒395-0244	山本1407番地	25-2247
2	木下 徳康	会派のぞみ	1	〒395-0813	毛賀366番地	24-4932
3	熊谷 泰人	会派のぞみ	1	〒395-0075	白山通り3丁目391番地1	53-4150
4	湯澤 啓次	会派のぞみ	2	〒395-0001	座光寺2570番地1	24-6698
5	山崎 昌伸	会派のぞみ	1	〒395-0817	鼎東鼎292番地7	23-0204
6	森本 政人	市民パワー	1	〒395-0821	松尾新井6662番地1	23-8991
7	古川 仁	日本共産党	1	〒395-0803	鼎下山677番地5	53-3792
8	小倉 高広	日本共産党	1	〒395-0004	上郷黒田554番地1	53-2585
9	湊 猛	会派のぞみ	2	〒399-1311	南信濃和田1343番地1	0260-34-2248
10	新井 信一郎	会派のぞみ	3	〒395-0151	北方3330番地1	25-5181
11	清水 勇	会派のぞみ	3	〒399-2221	龍江2453番地1	27-2569
12	吉川 秋利	会派のぞみ	3	〒395-0807	鼎切石4375番地	24-8268
13	永井 一英	公明党	3	〒395-0077	丸山町2丁目6725番地14	23-4021
14	木下 容子	市民パワー	4	〒395-0063	羽場町1丁目5番地7	22-5973
15	福沢 清	会派みらい	2	〒395-0029	二本松333番地1	22-5620
16	後藤 荘一	日本共産党	4	〒395-0156	中村1221番地	25-7857
17	木下 克志	会派のぞみ	4	〒395-0803	鼎下山665番地	24-5645
18	中島 武津雄	会派のぞみ	5	〒399-2565	桐林1347番地2	26-8080
19	村松 まり子	公明党	4	〒395-0814	八幡町489番地2	24-6884
20	林 幸次	公明党	5	〒399-2602	下久堅下虎岩3031番地10	29-8953
21	清水 可晴	市民パワー	5	〒395-0158	高羽町3丁目4番地8	23-8200
22	井坪 隆	会派みらい	5	〒395-0004	上郷黒田1826番地	23-6421
23	原 和世	会派みらい	5	〒395-0244	山本4703番地1	25-1216

### 年齢別議員数

(平成28年5月24日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員			3	3	17		23

### 当選回数別議員数

(平成28年5月24日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	計
人員	7	3	4	4	5	23

3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(平成27年5月12日改選)

議 長	木下 克志	副 議 長	木下 容子
-----	-------	-------	-------

(2) 委員会

(平成27年5月12日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (8人)	◎吉川 秋利 山崎 昌伸	○古川 仁 木下 容子	木下 徳康 林 幸次	熊谷 泰人 井坪 隆
社会文教委員会 (7人)	◎新井信一郎 後藤 荘一	○清水 可晴 中島武津雄	竹村 圭史 村松まり子	福沢 清
産業建設委員会 (7人)	◎永井 一英 小倉 高広	○湊 猛 清水 勇	湯澤 啓次 原 和世	森本 政人
議会運営委員会 (8人)	◎清水 勇 永井 一英	○後藤 荘一 中島武津雄	新井信一郎 清水 可晴	吉川 秋利 原 和世
リニア推進特別委員会 (8人)	◎井坪 隆 清水 勇	○湯澤 啓次 後藤 荘一	竹村 圭史 林 幸次	新井信一郎 清水 可晴
広報広聴委員会 (8人)	◎村松まり子 熊谷 泰人	○福沢 清 森本 政人	竹村 圭史 小倉 高広	木下 徳康 吉川 秋利
議会改革推進会議 (8人)	◎原 和世 古川 仁	○山崎 昌伸 湊 猛	熊谷 泰人 中島武津雄	森本 政人 村松まり子
議会議案検討委員会 (平成28.2.16設置) (8人)	◎原 和世 古川 仁	○山崎 昌伸 湊 猛	熊谷 泰人 中島武津雄	森本 政人 村松まり子
次期総合計画検討委員会 (平成28.3.18設置) (8人)	◎林 幸次 小倉 高広	○竹村 圭史 福沢 清	木下 徳康 中島武津雄	熊谷 泰人 清水 可晴

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(平成25年5月14日選任)

推 薦 基 準	任 期	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	4 年	中島 武津雄

## (2) 南信州広域連合議会議員

(平成27年5月12日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3常任委員長(3) 会派按分(7)	4年 (2年で改選)	木下 克志 木下 容子 吉川 秋利 新井信一郎 永井 一英 湯澤 啓次 湊 猛 清水 勇 後藤 莊一 林 幸次 清水 可晴 井坪 隆

## 5 議会選出の各種委員等

## (1) 附属機関等の委員名簿

(平成27年5月12日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
青少年問題協議会 (2人)	社文委員2	2年	新井信一郎 清水 可晴
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	3年	新井信一郎 清水 可晴
都市計画審議会 (5人)	総務1・社文1 産建3	2年	吉川 秋利 新井信一郎 永井 一英 湊 猛 原 和世
国民保護協議会 (3人)	3常任委員長	2年	吉川 秋利 新井信一郎 永井 一英

## (2) その他の団体の役員

(平成27年5月12日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 (7人)	正副議長 3常任委員長 監査委員 リニア推進特別 委員長	在職期間	【副会長】 木下 克志 【理事】 木下 容子 吉川 秋利 新井信一郎 永井 一英 井坪 隆 【監事】 中島武津雄
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 (3人)	正副議長 監査委員	2年	【副会長】 木下 克志 【理事】 木下 容子 【監事】 中島武津雄
三遠南信自動車道建設 促進飯田市九地区期成 同盟会	地区出身議員 下久堅・上久堅・ 千代・龍江・川路・三 穂・山本・上村・南 信濃	1年	【顧問】 林 幸次 清水 勇 竹村 圭史 原 和世 湊 猛
国道256号改良促進 期成同盟会 (3人)	正副議長 産建委員長	2年	【理事】 木下 克志 木下 容子 永井 一英
主要地方道飯田富山佐久 間線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	2年	【監事】 木下 克志 【理事】 木下 容子 永井 一英 湊 猛 林 幸次 清水 勇

主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷 橋北・橋南・羽場 丸山・東野・鼎・伊賀 良	2年	【理事】木下 克志 木下 容子 永井 一英 湊 猛 湯澤 啓次 小倉 高広 井坪 隆 福沢 清 熊谷 泰人 清水 可晴 吉川 秋利 山崎 昌伸 古川 仁 新井信一郎 後藤 莊一
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・丸 山・東野	2年	【理事】木下 克志 永井 一英 湊 猛 福沢 清 熊谷 泰人 清水 可晴 【監事】木下 容子
広域幹線林道千遠線 開設期成同盟会（2人）	議長 産建委員長	2年	【委員】木下 克志 永井 一英
国道152号改良促進 期成同盟会（2人）	議長 産建委員長	2年	【理事】木下 克志 永井 一英
国道418号整備促進 期成同盟会（4人）	正副議長 産建正副委員長	2年	【理事】木下 克志 木下 容子 永井 一英 湊 猛
都市計画道路羽場大瀬木 線改良促進連絡協議会	正副議長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場 丸山・鼎・伊賀良	1年	【相談役】木下 克志 木下 容子 福沢 清 熊谷 泰人 永井 一英 山崎 昌伸 古川 仁 吉川 秋利 新井信一郎 後藤 莊一
伊那テクノバレー地域 センター（1人）	議長	在職期間	【地域評議員】木下 克志
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員	在任期間	【委員】木下 克志 木下 容子 永井 一英 木下 徳康 森本 政人 村松まり子

(3) 議員による任意の団体

名称	基準	任期	氏名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1	2年	【会長】湯澤 啓次 【副会長】森本 政人 【幹事】小倉 高広 永井 一英 井坪 隆 【委員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊 橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在職期間	【会長】木下 克志 【委員】全市議会議員

6 各会派及び各会派の代表者氏名

会派名	代表者名	議員数	会派名	代表者名	議員数
会派のぞみ	中島武津雄	11	会派みらい	原 和世	3
公明党	永井 一英	3	市民パワー	清水 可晴	3
日本共産党	後藤 莊一	3			

### Ⅲ 1年間の活動

#### 1 市議会の活動状況

##### (1) 市議会招集回数10か年比較表

年次		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
区分	招集回数										
	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	0	1	0	2	0	2	0	1	1	1
会期日数		81	89	89	112	102	105	101	101	93	102
本会議日数		20	21	20	22	17	18	17	19	18	18
議案件数		170	177	171	197	199	287	218	228	226	208

##### (2) 議会開会状況（平成27年1月から27年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回定例会	2月25日～3月20日	24	4
2	第1回臨時会	5月12日～5月12日	1	1
3	第2回定例会	6月2日～6月26日	25	4
4	第3回定例会	9月1日～9月29日	29	4
5	第4回定例会	11月26日～12月18日	23	5
計			102	18

## (3) 議会審議状況（平成27年1月から27年12月まで）

区分		会別	第1回定例会	第1回臨時会	第2回定例会	第3回定例会	第4回定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		26	8	2	23	6	65
	条例		21	1	3	9	10	44
	その他		38	3	3	8	2	54
	計(A)		85	12	8	40	18	163
議員 提出議案	条例		2		1			3
	その他		1		7	3	3	14
	計(B)		3		8	3	3	17
議決状況	可決・同意		88	12	16	42	21	179
	否決					1		1
	継続審査							0
報告	専決処分		3		4	2	4	13
	その他				14	1		15
	計(C)		3		18	3	4	28
審議件数(A+B+C)			91	12	34	46	25	208

## (4) 付議事件及び議決結果一覧表

## ① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第1号	監査委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第2号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第3号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第4号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第5号	飯田市長野原財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第6号	飯田市時又財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第7号	飯田市桐林財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第8号	飯田市駄科財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第9号	飯田市山本区財産区管理委員の選任について	27. 2. 25	27. 2. 25	同意
議案第10号	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第11号	飯田市恩給条例等を廃止する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第12号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第13号	飯田市中山間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第14号	飯田市空家等の適正な管理及び活用に関する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第15号	飯田市障害者地域生活支援事業及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の施行に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第16号	飯田市保育所設置条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第17号	飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第18号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第19号	飯田市病院等料金条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第20号	飯田市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第21号	学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第22号	菱田春草生誕地公園条例の制定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第23号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第24号	松川町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第25号	高森町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第26号	阿南町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第27号	阿智村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第28号	平谷村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第29号	根羽村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第30号	下條村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第31号	売木村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第32号	天龍村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第33号	泰阜村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第34号	喬木村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第35号	豊丘村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第36号	大鹿村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	27. 2. 25	27. 2. 25	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第37号	戸籍に係る電子情報処理組織の事務の委託について	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第38号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市保健休養施設）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第39号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市天龍峡温泉交流館）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第40号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃観光施設等）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第41号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃陶芸館）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第42号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市特産物加工施設）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第43号	損害賠償の額を定めることについて	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第44号	市道路線の認定について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第45号	市道路線の廃止について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第46号	市道路線の変更について	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第47号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市立動物園）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第48号	公の施設の指定管理者の指定について（平成記念飯田子どもの森公園）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第49号	工事請負契約の一部変更について（竜峡共同調理場建築本体工事）	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第50号	工事請負契約の一部変更について（竜峡共同調理場機械設備工事）	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第51号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市営市民プール及び飯田運動公園プール）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第52号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市人形浄瑠璃施設）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第53号	平成26年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	27. 2. 25	27. 2. 25	可決
議案第54号	平成26年度飯田市一般会計補正予算（第8号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第55号	平成26年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第5号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第56号	平成26年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第57号	平成26年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第58号	平成26年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第59号	平成26年度飯田市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第60号	平成26年度飯田市下水道事業特別会計補正予算（第3号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第61号	平成26年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第2号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第62号	平成26年度飯田市病院事業会計補正予算（第3号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第63号	平成26年度飯田市水道事業会計補正予算（第2号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第64号	平成26年度飯田市各財産区会計補正予算（第1号）案	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第65号	平成27年度飯田市一般会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第66号	平成27年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第67号	平成27年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第68号	平成27年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第69号	平成27年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第70号	平成27年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第71号	平成27年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第72号	平成27年度飯田市簡易水道事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第73号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第74号	平成27年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第75号	平成27年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第76号	平成27年度飯田市病院事業会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第77号	平成27年度飯田市水道事業会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第78号	平成27年度飯田市各財産区会計予算（案）	27. 2. 25	27. 3. 20	可決
議案第79号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第80号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第81号	飯田市デイサービスセンター条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第82号	飯田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第83号	飯田市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第84号	飯田市指定介護予防支援等の事業に係る人員、運営及び介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第85号	飯田市立病院介護老人保健施設条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 6	27. 3. 20	可決
議案第86号	副市長の選任について	27. 5. 12	27. 5. 12	同意
議案第87号	飯田市上川路財産区管理委員の選任について	27. 5. 12	27. 5. 12	同意
議案第88号	飯田市特別職の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 5. 12	27. 5. 12	可決
議案第89号	損害賠償の額を定めることについて	27. 5. 12	27. 5. 12	可決
議案第90号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	27. 6. 2	27. 6. 2	同意

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第91号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	27.6.2	27.6.2	同意
議案第92号	飯田市税条例等の一部を改正する条例の制定について	27.6.2	27.6.26	可決
議案第93号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27.6.2	27.6.26	可決
議案第94号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	27.6.2	27.6.26	可決
議案第95号	市道路線の変更について	27.6.2	27.6.26	可決
議案第96号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第1号）案	27.6.2	27.6.26	可決
議案第97号	平成27年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）案	27.6.2	27.6.26	可決
議案第98号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	27.9.1	27.9.1	同意
議案第99号	飯田市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第100号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第101号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第102号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第103号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第104号	飯田市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第105号	飯田市地域子育て支援拠点施設条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第106号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第107号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第108号	工事請負契約の一部変更について（現庁舎耐震改修建築工事）	27.9.1	27.9.29	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第109号	工事請負契約の締結について（現庁舎耐震改修機械設備工事）	27.9.1	27.9.29	可決
議案第110号	工事請負契約の締結について（周辺施設整備建築工事）	27.9.1	27.9.29	可決
議案第111号	市道路線の変更について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第112号	公の施設の指定管理者の指定について（市営住宅等及び共同施設等）	27.9.1	27.9.29	可決
議案第113号	平成26年度飯田市病院事業剰余金の処分について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第114号	平成26年度飯田市水道事業剰余金の処分について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第115号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案	27.9.1	27.9.1	可決
議案第116号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第3号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第117号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計補正予算（第1号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第118号	平成27年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第119号	平成27年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第120号	平成27年度飯田市病院事業会計補正予算（第1号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第121号	平成27年度飯田市水道事業会計補正予算（第1号）案	27.9.1	27.9.29	可決
議案第122号	平成26年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第123号	平成26年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第124号	平成26年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第125号	平成26年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第126号	平成26年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第127号	平成26年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第128号	平成26年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第129号	平成26年度飯田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第130号	平成26年度飯田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第131号	平成26年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第132号	平成26年度飯田市上村デイサービスセンター特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第133号	平成26年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	認定
議案第134号	平成26年度飯田市病院事業決算認定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第135号	平成26年度飯田市水道事業決算認定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第136号	平成26年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	27.9.1	27.9.29	可決
議案第137号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	27.11.26	27.11.26	同意
議案第138号	飯田市特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び飯田市特別職の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第139号	飯田市職員の退職手当に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第140号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第141号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第142号	飯田市市民協働サロン条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第143号	飯田市斎苑条例の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決
議案第144号	飯田市社会福祉審議会条例の一部を改正する条例の制定について	27.11.26	27.12.18	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第145号	飯田市下水道事業の設置等に関する条例の制定について	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第146号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第147号	飯田市勤労青少年ホーム条例の一部を改正する条例の制定について	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第148号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第5号）案	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第149号	平成27年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第150号	平成27年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第151号	平成27年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第152号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計補正予算（第2号）案	27. 11. 26	27. 12. 18	可決
議案第153号	教育長の任命について	27. 12. 18	27. 12. 18	同意

②議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議会議案 第1号	飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	27. 3. 20	27. 3. 20	可決
議会議案 第2号	飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例の制定について	27. 3. 20	27. 3. 20	可決
議会議案 第3号	ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書の提出について	27. 3. 20	27. 3. 20	可決
議会議案 第4号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第5号	飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第6号	安全保障法制の慎重な審議を求める意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第7号	年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第8号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第9号	国の責任による35人以下学級の推進及び教育予算の増額を求める意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第10号	複式学級の編成基準の改善及び教職員定数増を求める意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第11号	地方公共団体による乳幼児医療等の単独助成に対する、国民健康保険制度における国庫負担の減額調整措置のあり方について見直しを求める意見書の提出について	27. 6. 26	27. 6. 26	可決
議会議案 第12号	平和安全法制の強行採決に抗議する意見書の提出について	27. 9. 29	27. 9. 29	否決
議会議案 第13号	「平和安全法制」の慎重かつ適正な運用を求める意見書の提出について	27. 9. 29	27. 9. 29	可決
議会議案 第14号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	27. 9. 29	27. 9. 29	可決
議会議案 第15号	森林吸収源対策の財源確保を求める意見書の提出について	27. 12. 18	27. 12. 18	可決
議会議案 第16号	介護労働者の処遇改善を求める意見書の提出について	27. 12. 18	27. 12. 18	可決
議会議案 第17号	へき地教育の充実及びへき地級地指定の改善を求める意見書の提出について	27. 12. 18	27. 12. 18	可決

③報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 2. 25		
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 2. 25		
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 2. 25		
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例等の一部を改正する条例の制定について）	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市一般会計補正予算（第9号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第6号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第1号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第10号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市下水道事業特別会計補正予算（第4号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第11号	専決処分の承認を求めることについて（平成26年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第3号））	27. 5. 12	27. 5. 12	承認
報告第12号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 6. 2		
報告第13号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 6. 2		
報告第14号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 6. 2		
報告第15号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 6. 2		
報告第16号	権利の放棄について（建設工事請負契約の解除による違約金に係る債権）	27. 6. 2		
報告第17号	権利の放棄について（市営住宅の家賃に係る債権）	27. 6. 2		
報告第18号	権利の放棄について（二ツ山専用水道の料金に係る債権）	27. 6. 2		

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
報告第19号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	27.6.2		
報告第20号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	27.6.2		
報告第21号	権利の放棄について（建設工事請負契約の解除による違約金に係る債権）	27.6.2		
報告第22号	平成26年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	27.6.2		
報告第23号	平成26年度飯田市下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	27.6.2		
報告第24号	平成26年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	27.6.2		
報告第25号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	27.6.2		
報告第26号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	27.6.2		
報告第27号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	27.6.2		
報告第28号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	27.6.2		
報告第29号	一般財団法人飯田市南信濃振興公社の経営状況を説明する書類の提出について	27.6.2		
報告第30号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27.9.1		
報告第31号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	27.9.1		
報告第32号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27.9.1		
報告第33号	専決処分の承認を求めることについて（平成27年度飯田市各財産区会計補正予算（第1号））	27.9.1	27.9.1	承認
報告第34号	専決処分の承認を求めることについて（平成27年度飯田市一般会計補正予算（第4号））	27.11.26	27.11.26	承認
報告第35号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27.11.26		
報告第36号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27.11.26		

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
報告第37号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 11. 26		
報告第38号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	27. 11. 26		

(5) 議会において執行した選挙・選任等

(平成27年1月から平成27年12月まで)

会 期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	27.2.25	・ 監査委員の選任
		・ 固定資産評価審査委員会の委員の選任
		・ 飯田市南部財産区管理委員の選任
		・ 飯田市中心部財産区管理委員の選任
		・ 飯田市長野原財産区管理委員の選任
		・ 飯田市時又財産区管理委員の選任
		・ 飯田市桐林財産区管理委員の選任
		・ 飯田市駄科財産区管理委員の選任
		・ 飯田市山本区財産区管理委員の選任
第1回臨時会	27.5.12	・ 副市長の選任
		・ 飯田市上川路財産区管理委員の選任
第2回定例会	27.6.2	・ 人権擁護委員の候補者の推薦
		・ 飯田市千代財産区管理委員の選任
第3回定例会	27.9.1	・ 飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
第4回定例会	27.11.26	・ 人権擁護委員の候補者の推薦
	27.12.18	・ 教育長の任命

(6) 委員会活動開催状況

(平成27年1月から平成27年12月まで)

	常任委員会			特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務	社会文教	産業建設	リニア推進				
委員会	10	9	12	7	16	11	15	9
協議会	7	8	7	8	0	0	0	0
計	17	17	19	15	16	11	15	9

(7) 請願陳情

①委員会別審査状況

(平成27年1月から平成27年12月まで)

		処 理 状 況							合計
		採択	趣旨採択	審議未了	取下げ	不採択	審議中	議決を要さず	
請 願	総務	2				3			5
	社会文教	4				1			5
	産業建設								
	計	6				4			10
陳 情	総務								
	社会文教	1							1
	産業建設					1			1
	計	1				1			2

※受理番号1件のもので、要旨が数項目ある場合

① 同一委員会で、全ての項目を審査し、全項目を一括採決した場合は、1件とする。

② 処理状況が複数にわたる場合は、その結果をそれぞれ1件とする。

③ 複数の委員会へ項目を分けて付託審査した場合は、それぞれを1件とする。

したがって②③の処理がされた場合は、「受付番号」の件数より、処理状況合計数は大きくなる。

②請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
総務	27請願 第1号	国に対し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、閣議決定に基づく法整備を行わないよう求める意見書を提出願いたい	27.3.6	27.3.20	不採択
総務	27請願 第2号	国に対し、集団的自衛権の行使を容認する閣議決定を速やかに撤回し、平和安全法制にかかる2法案の制定を断念するよう求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	不採択
総務	27請願 第3号	国に対し、年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	採択
社文	27請願 第4号	国に対し、「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	採択
社文	27請願 第5号	国に対し、国の責任による35人以下学級推進と教育予算の増額を求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	採択
社文	27請願 第6号	国に対し、複式学級の編成基準の改善及び教職員定数増を求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	採択
総務	27請願 第7号	国に対し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、閣議決定に基づく法整備を行わないよう求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	不採択
総務	27請願 第8号	国に対し、地方財政の充実・強化を求める意見書を提出願いたい	27.9.10	27.9.29	採択
社文	27請願 第9号	国に対し、介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める意見書を提出願いたい	27.12.9	27.12.18	不採択
社文	27請願 第10号	県に対し、へき地教育の充実とへき地級地指定改善を求める意見書を提出願いたい	27.12.9	27.12.18	採択

③陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
総務	27陳情 第1号	国に対し、自治体による乳幼児医療等の単独助成に対する、国民健康保険制度における国庫負担の減額調整措置の在り方について見直しを求める意見書を提出願いたい	27.6.15	27.6.26	採択
総務	27請願 第2号	国に対し、TPP「大筋合意」の詳細と協定本文の速やかな開示による国民議論の保障と、国会決議に違反する「合意」の撤回を求める意見書を提出願いたい	27.12.9	27.12.18	不採択

(4) 付議事件及び議決結果一覧表

① 第1回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成27年3月5、6日

No.	氏名	項目・要旨
1	吉川秋利 (会派のぞみ)	<p>1 高等教育機関の設置について</p> <p>(1) 模擬大学院大学の今後の方向性は</p> <p>(2) デザイン系大学院の設置を考える会との連携は</p> <p>(3) ワーキンググループの検討はどうなっているか</p> <p>2 コンパクトシティについて</p> <p>(1) 市長はコンパクトシティについてどのような考えをもっているか</p> <p>(2) コンパクトな行政への対応は</p> <p>3 リニア中央新幹線開通に向けての飯田市の考え方について</p> <p>(1) リニア中央新幹線とJR飯田線乗換新駅の結節について</p> <p>① 結節方法は</p> <p>② 乗降客数に対する考えは</p> <p>(2) 長野県の玄関として飯田をどのように構築していくか</p> <p>① 域産域消は是か非か</p> <p>② 飯田市のブランディングをどのように考えているか、また、どのように進めているか</p>
2	竹村圭史 (会派のぞみ)	<p>1 「飯田市 次期総合計画策定に向けての考え方」について</p> <p>(1) 第5次基本構想基本計画の現時点における評価について市長の考えは</p> <p>(2) 第5次基本構想基本計画推進委員会からの提言の中から、次期総合計画策定にあたり参考とすべきものは何か</p> <p>(3) 次期総合計画策定に向けた市長の思いは</p> <p>(4) 「次期総合計画策定に向けての考え方」において核となる考えは何か</p> <p>(5) 今後の具体的な策定を行っていくうえで、策定体制が重要になってくる。その中でも将来の飯田市を背負う若年層の意見が大切であると考えているが、体制の中へどの様に組み込んでいくか</p> <p>(6) 市民の意識共有化を図るためには広報のあり方も大切な視点となるが、現時点で市民に対しどのように周知を図っていこうと考えているか</p> <p>2 県立武道館構想について</p> <p>(1) 長野県が「武道振興施設のあり方」を検討し、このほど報告書が発表されたが、このことについて市長はどのように受け止めているか</p> <p>(2) リニア開通を見据えた時、全国規模の大会を開催することも視野に入れ、長野県の武道振興施設を飯田市へ誘致する考えは</p>
3	原和世 (会派みらい)	<p>1 技能労働者(大工・左官業・豊職人・型枠大工など)の養成に関して</p> <p>(1) 減少しつつある地域の技能労働者の確保は、地方創生の視点(ひとづくり・ものづくり・まちづくり)からも重要な課題のひとつではないか。地域の産業構造基盤強化としての取り組みの考えを聞く</p> <p>① 付加価値の再生産として技能労働者の役割をどう考えるか</p> <p>② 技能労働者の実態評価は</p> <p>③ 技能労働事業者と課題を共有する上での対応策の検討は</p> <p>④ 技能労働者の技能習得に対する奨励金制度は</p> <p>2 昨年的一般質問における提言と指摘事項に関して</p> <p>(1) 一般質問で行った提言及び指摘事項に関する検討状況について聞く</p> <p>① 公営住宅の住民自治に関する見直しは</p> <p>② 政策決定過程に関わる議事録の公開は(教育委員会も含む)</p> <p>③ 土砂災害を教訓にした情報の伝達について</p> <p>④ 医薬品の備蓄と自動体外式除細動器(AED)の管理体制は</p>

No.	氏名	項目・要旨
4	清水可晴 (市民パワー)	<p>1 農地転用許可の権限移譲と農業・農村の活性化策について</p> <p>(1) 地方からの提案等に関し、地方6団体の代表として取り組んだ市長の思いと、閣議決定に対する評価は</p> <p>(2) 農地転用の許可権限の市への移譲と指定は</p> <p>(3) 農業・農村の活性化策に取り組むべき課題は</p> <p>① 権限移譲とともに課題である農地の総量確保の目標設定をどのように進めるか</p> <p>② 農地の確保に資する担い手の育成と確保をどのように考えるか</p> <p>③ 集落複合経営の再構築は</p> <p>2 医療と介護の連携と市立病院の果たす役割について</p> <p>(1) 「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本方針」に関し、その基本方向は</p> <p>(2) 地域医療介護総合確保基金の活用と飯田市計画は</p> <p>① 地域医療に向けた医療機関の施設・設備整備に関する事業は</p> <p>② 医療従事者・介護従事者の確保は</p> <p>(3) 医療・介護の提供体制は</p> <p>① 入院医療の機能は</p> <p>② 在宅医療・介護の連携推進は</p> <p>(4) 市立病院の果たす役割は</p> <p>① 急性期医療と地域医療との連携強化は</p> <p>② 看護人材確保は</p>
5	山崎昌伸 (無党派)	<p>1 飯田市キャリア教育の推進について</p> <p>(1) 飯田市キャリア教育の目的は何か</p> <p>(2) 「飯田型キャリア教育」とは何か</p> <p>(3) 「飯田型キャリア教育」で育みたいとしている「5つの力」について、具体的にどのように育もうとしているか</p> <p>(4) 職場体験受入れ企業の「飯田型キャリア教育」への理解をどう捉えているか</p> <p>(5) 教員の「飯田型キャリア教育」への理解と実践についてどう捉えているか</p> <p>(6) 「キャリア教育推進フォーラム」を、今後どのように展開しようとしているか</p>
6	古川仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の福祉について</p> <p>(1) 車椅子で生活されている方への支援について</p> <p>① 現在、身障手帳所持者で車椅子で生活されている方は何人か</p> <p>② 具体的にどのような支援がされているか</p> <p>③ 車椅子の耐久年数をどう考えるか</p> <p>④ 今後、支援の拡大は考えているか</p> <p>2 飯田市の安全について</p> <p>(1) カーブミラーについて</p> <p>① 冬季、ミラーが曇ってしまうが市はどうか</p> <p>② カーブミラーの種類は</p> <p>③ 曇らないミラーへ換えるのはどうか</p>
7	井坪隆 (会派みらい)	<p>1 リニア中央新幹線への取り組みについて</p> <p>(1) 「リニア整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」について</p> <p>① JR飯田線との連携について</p> <p>ア どのような合意が図られているか</p> <p>イ 具体的な取り組みをどのように進めるか</p> <p>2 旧飯田工業高校の施設を活用した「サイエンスパーク」について</p> <p>(1) 市長の描く「サイエンスパーク」とは、どのようなものか</p> <p>(2) 国の支援は、どのような期待ができるか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	井 坪 隆	(3) 地域(地元、議会、庁内、広域及び県)とのコンセンサスを、どのように図っていく考えか
8	福 沢 清 (会派みらい)	1 少子・人口減少社会における学校のあり方について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小中学校の統廃合についてどのように考えるか               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小中学校の適正規模とは</li> <li>② 小中学校の通学時間をどう考えるか</li> <li>③ 1月に文部科学省から出された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」について、飯田市はどうか考えるか</li> <li>④ 地域と学校の結びつきから小中学校は現状配置でよいのではないか</li> </ol> </li> <li>2 地区防災計画について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地区防災計画策定の背景は何か</li> <li>(2) 飯田市として考えられる大きな災害はどのようなものか</li> <li>(3) 地区の避難所はきめ細かく決められているか</li> <li>(4) アパート・マンション等入居者についての情報把握はどうか</li> <li>(5) 地区防災計画の周知は万全を期しているか</li> </ol> </li> </ol>
9	木 下 徳 康 (会派のぞみ)	1 「デザイン思考的アプローチ」について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市長の進める市政と「デザイン思考的アプローチ」の発想はどのような関連があるか</li> <li>(2) 市長の考えるデザインとは何か。それを思考する方法とはどういうものか</li> <li>(3) 人材育成について               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 育成すべき人材とはどういう人か</li> <li>② その人材をどう育てるか</li> <li>③ 地域おこし協力隊の拠点を設けたらどうか</li> </ol> </li> </ol>
10	森 本 政 人 (市民パワー)	1 小規模小中学校の統廃合について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文部科学省は1月27日に公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引を公表したが、市としてどのように受け止めているか</li> <li>(2) 平成28年度までの方向性を示した「飯田市教育振興基本計画」の見直しを考えているか</li> </ol> 2 まち・ひと・しごと創生法による飯田版総合戦略の考え方と取り組みについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 東京一極集中から地方への人口移動を目指す「地方創生」の目指す意図をどのように受け止めているか</li> <li>(2) 飯田版総合戦略に人口目標を定める考えは</li> <li>(3) まち・ひと・しごと創生法は選択と集中を目指していると思う。これは、中山間地域からの撤退を想起させるが、どのように捉えているか</li> <li>(4) まち・ひと・しごと創生法に関し「集落ネットワーク圏形成事業」とはどのようなものか</li> <li>(5) 地域おこし協力隊を導入する戦略的意図は</li> </ol>
11	村 松 まり子 (公明党)	1 国の補正予算と新年度予算を受けた市の取り組みについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 緊急経済対策を伴う国の2014年度補正予算は、家計や地方、中小企業に着実に恩恵を行き届かせることが重要とされている。市長は、これをどう地域経済の再生へとつなげていく考えか</li> <li>(2) 国は、「子ども・子育て支援新制度」に予算を優先的に充てることとしているが、それらの活用も含め市はどのような事業に取り組もうとしているか</li> <li>(3) 「地方創生」元年の国の新年度予算では、「地域創生」に7,225億円が充てられた。長期ビジョン、地方総合戦略の策定と併せて、市はどのように活用していくか</li> <li>(4) 国の新年度予算では、新産業を育てて、競争力の強化のための地域経済活性化を目指している。これを受けた市の地域経済活性化への取り組みの考えは</li> </ol>

No.	氏名	項目・要旨
	村松 まり子	2 認知症の国家戦略と市の取り組みについて (1) 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進は (2) 「初期集中支援チーム」の取り組みは (3) 若年性認知症施策の取り組みは (4) 認知症患者の見守り体制や消費者被害、交通事故防止などの体制は
12	湊 猛 (会派のぞみ)	1 地域自治組織に対する助成について (1) 地域自治組織の加入率を高める取り組みの状況と課題認識は (2) 各地区のまちづくり委員会に対して交付している地域自治組織助成(パワーアップ地域交付金)を実施してきた経過は (3) パワーアップ地域交付金の交付のあり方について、まちづくり委員会の意見をどのように考えていくか (4) 今後、地域自治組織に対する助成のあり方について市長の考え方は 2 上村・南信濃地区における土砂災害防止法の区域指定について (1) 土砂災害防止法の概要及び同法制度の背景は (2) 区域指定にかかる飯田市の取り組みは (3) 危険区域を抱える上村・南信濃地区における防災等をどのように対応したか (4) 防災事業の国・県への要請を市は率先して先頭に立つべきと考えるが市長の考えは
13	湯澤 啓次 (会派のぞみ)	1 年頭所感「～真の地方創生に求められるサイエンスパーク機能～」について (1) 国が提唱するナレッジ・リンク(学術研究都市群)の形成に対しリニア将来ビジョンで構想される多機能高付加価値都市圏、今回構想されるサイエンスパークはどう位置づけられるか (2) 全国のサイエンスパークの実情を踏まえ、飯田市が構想するサイエンスパークとは ① サイエンスパークに不可欠とされるキーストーン(要石)は何か ② 飯田市が求めるサイエンスパーク機能とは何か 2 旧飯田工業高校の施設を「知と産業の集積拠点」とする構想について (1) 南信州・飯田産業センター移転構想とは ① 現在の産業センターをどう評価するか ア 当地域へ産業センターが果たす役割、機能は何か ② サイエンスパーク形成の中で産業センターをどう位置づけ、機能をどう高めるか ア 高度な工業技術を支える試験施設をどう拡充するか イ 人材育成、インキュベーター機能をどう強化するか ウ 大学・企業連携強化、技術者・企業家の集う「共創の場」をどうデザインするか エ カタリスト(触媒者)をどう見つけていくか オ 食品、醗酵などへの展開は カ パークに相応しいアメニティー空間の演出は ③ 技能育成の場とする考えは (2) 歴史文化の知の集積拠点とする考えは ① 分散している歴史文化施設の現状をどう考えるか ② 産業経済を育み、人材を惹きつける基盤として歴史文化研究の拠点をサイエンスパークに設置する考えは ア 歴史研究所を移転、拡充する考えは イ 恒川官衙遺跡・飯田古墳群など考古資料の研究、展示、交流拠点とする考えは ウ 飯田市美術博物館と連携する中で、民俗・伝統文化資料の展示、交流拠点とする考えは

No.	氏名	項目・要旨
	湯澤啓次	(3) サイエンスパーク形成における大学院大学、学輪IIDAの位置づけ、役割は。今後どう展開していくか
14	小倉高広 (日本共産党)	1 第6期介護保険事業計画(案)について (1) 「新総合事業」への移行で何がかわるか (2) 「新総合事業」の仕組みと問題点は何か (3) 「新総合事業」の財源はどうなるか (4) 「在宅生活」を支える基盤整備はどのように行うか 2 第4期飯田市障がい福祉計画(案)について (1) 「計画(案)」の策定はどのように行われたか (2) 「計画(案)」において重点としたものは何か (3) サービス提供の数値目標は障がい者・家族のニーズに応えるものか (4) 地域生活を支える資源・サービスを拡充すべきだと考えるがどうか 3 リニア中央新幹線について (1) 市が想定している乗降客数の6,900人はどのように算出したか (2) 市は調査資料を公開し6,900人の根拠を市民に説明すべきだと考えるがどうか
15	木下容子 (市民パワー)	1 飯田市こども家庭応援センター開設に向けて (1) 本年7月に開設予定の飯田市こども家庭応援センターの目的と役割は (2) 具体的な機能はどうか (3) 運営には、保健・福祉分野だけでなく、医療・教育分野との連携が欠かせないと考えるが、組織体制はどうか (4) 職員体制はどうか (5) 18歳までの切れ目のない応援が必要と考えるが、どう取り組むか 2 被害が止まらない特殊詐欺への対策について (1) 平成26年中の被害の実態はどうか(全国・県内・市内での件数・被害額) (2) なぜ被害が止まらないと考えるか (3) 特殊詐欺の具体的な手口はどのようなものか (4) 飯田市としてどのような対策に取り組むか (5) 若者が特殊詐欺に関わる事例が増えていることから、学校において、勤労の大切さを認識させる教育が必要ではないか (6) 被害に遭われた方や家族へのフォローをどのように考えるか
16	永井一英 (公明党)	1 暮らしと生命を守る安心安全で快適なまちづくりについて (1) 平成25年12月に、「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」が成立した。どのような内容か (2) 昨年は、全国各地で台風や豪雨などの気象災害が相次いだ。国は、それを受けて様々な制度の改正にも取り組んだと聞く。今年度の県と市の取り組みは ① 新年度に向けて、市が予算に反映させた新たな防災・減災対策は ② 自然災害の多発期に入ったとも言われる日本において、情報伝達による減災への取り組みが重要だと言われている。市はどう考えるか 2 情報通信技術の活用について (1) 新年度に向けて、市は新しい媒体を利用した情報通信技術の活用を考えているか (2) 例えば、「出産・子育て応援メール配信」はどうか
17	後藤荘一 (日本共産党)  後藤荘一	1 市財政について (1) 平成26年度の決算見込みについて ① 税収等歳入の状況は ② 歳出で特徴的なものは ③ 起債残高や基金の状況は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
		<p>(2) 平成27年度の予算案はどのように歳入歳出のバランスをとって組み立てたか</p> <p>① 予算要求時の歳入歳出の額はどうか</p> <p>② 地域の厳しい経済状況下で、市民の暮らしを守る予算となっているか</p> <p>③ 昨年の消費税増税と10%の先送りや円安株高の影響は</p> <p>(3) 国民健康保険特別会計について</p> <p>① 平成26年度の保険給付費の状況は</p> <p>2 地域経済活性化プログラムについて</p> <p>(1) 地域経済分析について</p> <p>① 経済自立度の目標値達成の見通しは</p> <p>② 分析の手法や対象の部門を「産業連関分析」で行うと飯田市の経済全体が見えると思うがどうか</p>
18	木 下 克 志 ( 会 派 の ぞ み )	<p>1 障がい福祉について</p> <p>(1) 障がい福祉施策の現状について</p> <p>① 措置制度から支援制度への移行とは</p> <p>② 障がいの多様化と障がい者が増えている現状と課題は</p> <p>(2) 就労支援について</p> <p>① 制度と現状は</p> <p>② 農福連携の取り組みは</p> <p>ア 農福連携の取り組みへの市の関わりは</p> <p>イ 障がい者の農業就労チャレンジ事業は</p> <p>③ 今後の対応は</p> <p>ア 障がい者優先調達推進法とは</p> <p>イ 就労移行支援をどう考えるか</p> <p>(3) 「障がい者福祉推進都市」の指定を受けている市の福祉行政について</p> <p>① 障がい者福祉の担い手は</p> <p>② 南原地区での福祉の里の取り組みをモデルにできないか</p> <p>③ 障がい者の高齢化に伴う課題は</p>
19	新 井 信 一 郎 ( 会 派 の ぞ み )  新 井 信 一 郎	<p>1 リニア新時代における、農業政策ビジョンについて</p> <p>(1) 長野県の農業センサスから見る、飯田市の農業基盤の現状と今後政策ビジョンは</p> <p>① 米作について</p> <p>ア 現状は</p> <p>イ 米粉利用の現状は</p> <p>ウ 飼料米についての考えは</p> <p>② 畜産業について</p> <p>ア 現状認識は</p> <p>イ 飼料についての考えは</p> <p>ウ 南信州牛等ブランド展開と今後は</p> <p>③ 果樹について</p> <p>ア 現状認識は</p> <p>イ 鳥獣被害の現状は</p> <p>ウ 今後の方針は</p> <p>④ 花きについて</p> <p>ア 花きの現状は</p> <p>イ 生産と地域内消費拡大の取り組みは</p> <p>⑤ 新規就農者支援について</p> <p>ア 新規就農者は現在どのくらいいるか</p> <p>イ 支援制度は</p> <p>ウ 今後の方針は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
		<p>エ 農地と新規就農者とのマッチング事業は</p> <p>⑥ 専業農家支援について</p> <p>ア 現状は</p> <p>イ 地域の農業リーダーでもある。リーダー不在となれば兼業農家すら立ち行かなくなる恐れがある。特段の支援策は考えられないか</p> <p>⑦ 南信州の野菜について</p> <p>ア 地域特有の野菜があるが認識は</p> <p>イ 地域特有の野菜の保全や消費手法は</p> <p>ウ 銀座NAGANOの活用は</p> <p>エ 都市部から生産地へのツアー、農業体験への展開は</p> <p>(2) リニア新時代における農業のあり方は</p> <p>2 リニア新時代における工業ビジョンについて</p> <p>(1) 現在、市の保有する工業団地について</p> <p>① 現状は</p> <p>② 新規工業団地への取り組みは</p> <p>③ 連携の取りやすい集積地構想は</p> <p>④ 社会情勢により国外へ拠点移動や、規模拡大をした企業があるが、国内(飯田市)に回帰支援は考えられないか</p> <p>⑤ 人材確保策及び育成は</p> <p>3 リニア新時代における長期ビジョンについて</p> <p>(1) リニア中央新幹線ベルト地帯(ナレッジ・リンク)から見る、国土の内陸部の役目をどう担うか</p> <p>① 構想計画など話し合いは国、県等としているか</p> <p>② 首都機能バックアップ構想は考えられないか</p> <p>(2) 強いリーダーシップが求められるが市長の考えは</p>
20	清水 勇 (会派のぞみ)	<p>1 学輪IIDAの取り組みとフィールドスタディについて</p> <p>(1) 学輪IIDAとは、また取り組んだ目的は何か</p> <p>① 4年間の参加大学数と学生の人数はどうか</p> <p>② 取り組む科目はどのように決めているか</p> <p>③ フィールドスタディのカリキュラムはどのように考えているか、また地域のかかわり方はどうか</p> <p>④ 今まで学生が取り組んだフィールドスタディで飯田市や地域がプラスになった事例はあるか</p> <p>⑤ 学輪IIDAが始まり5年目になるが、今までの検証と今後の取り組み方をどのように考えているか</p> <p>⑥ フィールドスタディの取り組む科目について、行政としては意見交換する考えはあるか</p> <p>⑦ 学輪IIDAやフィールドスタディを通じて飯田市が期待していることは何か</p>

②第2回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成27年6月12,15日

No.	氏名	項目・要旨
1	新井 信一郎 (会派のぞみ)	1 リニア新時代における、水産業政策ビジョンについて (1) 水産業の現状把握は ① 近年の鯉や溪流魚などの生産量推移は (2) 国、県、市の対応は (3) リニア新時代に向け、「川魚」、「淡水魚」のブランド化推進の考えは (4) 支援策及び販売促進は (5) 長野県水産試験場等誘致の考えは 2 ふるさと納税について (1) 今までの取り組みとこれまでの実績は (2) 今後更なる増額を目指す考えは 3 地方創生について (1) 「地方版総合戦略」策定について ① 現在の策定進捗状況は ② 他の政策・ビジョンとの整合性は ③ 人口減少時代における市民参加、市民主役、そのスタンスは (2) 定住自立圏、連携中核都市を核とする圏域、県による補完、それら地方圏への新たな広域連携のアプローチは
2	福 沢 清 (会派みらい)	1 介護保険制度の改正に伴う飯田市の役割について (1) 介護保険制度改正のねらいは何か (2) 今回の制度改正に伴う飯田市の課題は (3) 今後の介護施設のあり方はどうか ① 「小規模多機能型居宅介護」とは何か、また、飯田市における展望はどうか ② 空き家の利活用として、小規模の介護施設はどうか (4) 地域で高齢者を支える仕組みをどう考えるか 2 マイナンバー制度について (1) マイナンバー制度の目的は何か (2) マイナンバー制度のメリットは (3) マイナンバー制度の実施にあたって飯田市の課題は (4) 制度導入に伴う民間業者の負担に対する行政の支援は
3	湯 澤 啓次 (会派のぞみ)	1 実務段階に入ったリニア関連事業に対する市の対応について (1) 建設発生土処理の見通しと市の対応は (2) 駅周辺整備基本計画(平面計画)策定の具体的な進め方は ① 基本計画で明らかとなるものは何か ② 方針にある「周辺のまちづくりと連携し伊那谷らしさを感じられる景観形成」とは何か。どう計画策定するか ③ 計画策定に関わる組織は。多様な声をどう反映するか (3) 移転を余儀なくされる住民、事業主に対する市の対応は ① 市長の想い、決意は ② 移転に至るまでの市の具体的な対応方針は ア 市民、まちづくり委員会、JR東海・県、自治振興センター、市担当部署間の連携、役割分担は 2 「食」から考える飯田のブランディングについて (1) ブランディング戦略の中で「食」をどう考えているか ① ブランドに成り得る飯田らしい「食」とは何か

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湯 澤 啓 次	<p>市田柿に続く有力な「食」として期待できるものは何か</p> <p>② 「食」のブランド化に市はどう関わっていくか</p> <p>(2) 飯田産ワイン、シードル(りんご酒)の可能性をどう生かすか</p> <p>① 県の信州ワインバレー構想をどう評価し、どう対応するか ア 信州ワインバレー構想推進協議会へ加入する考えは</p> <p>② 飯田に芽生え始めた山ぶどうワイン、シードルづくりの動きをどう評価し、伸ばしていくか</p> <p>(3) ブランド力のある「食」を市民生活の中にどう取り入れ、農業振興に結びつけるか</p> <p>(4) ブランド力向上のために情報収集を兼ねた双方向の情報発信は</p> <p>① 飯田の「食」の魅力を軸とした情報交流ポータルサイトを市内の意欲ある若手で立ち上げたらどうか</p>
4	清 水 可 晴 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 飯田市版総合戦略とサイエンスパーク構想について</p> <p>(1) 増田レポートを踏まえての国の地方創生の概念と受け止めは</p> <p>(2) 飯田市版総合戦略がめざす計画目的と意図は</p> <p>(3) 市長が提唱するサイエンスパーク構想の具現化は</p> <p>① 地方創生を実現するために提唱したサイエンスパーク構想をどのように推進するか</p> <p>② ダイナミズムを創出するための産業クラスターの集積をどのように創るか</p> <p>③ 飯田市の産業集積や企業人財、行政がこれまで投資してきた拠点施設をサイエンスパーク構想とどのように関連付けて取り組むか</p> <p>④ サイエンスパーク構想は、経済自立度の目標にどう反映されるか</p> <p>⑤ サイエンスパーク構想は、魅力ある雇用拡大に繋がるか</p> <p>2 リニア時代に向けて、インフラ整備の考え方について</p> <p>(1) 南信州広域連合は、策定した基本構想実現のためにコンベンションセンターやスポーツ施設整備を検討している。その受け皿として市が「スマート・ベニュー」の手法で取り組む考えは</p> <p>(2) 座光寺河川敷、川路河川敷グラウンドの芝生化は</p>
5	木 下 容 子 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 安心して子どもを産み育てられる環境づくりについて</p> <p>(1) 「子どもを産みやすい社会環境」について、「市民意識調査」の結果をどうとらえているか</p> <p>(2) 飯田市における「妊娠・出産包括支援事業」の状況は</p> <p>(3) 不妊治療支援の環境整備について</p> <p>① 不妊治療の現状はどうか</p> <p>② 地域における「不妊治療サポーター」・「妊活サポーター」などの人的支援は考えられないか</p> <p>③ 男性不妊検査への支援体制はどうか</p> <p>④ 不育症への助成は考えられないか</p> <p>2 「飯田市立病院 中期計画」の進捗状況について</p> <p>(1) 計画期間の中間年を迎えたが、計画の進捗状況はどうか</p> <p>(2) 地域の保健、医療、福祉機関などとの連携をどう考えていくか</p> <p>① 「中間計画」では、医療だけでなく、幅広い連携を必要としているが、どう展開しているか</p> <p>② 地域においての医療情報の共有化はどのように進んでいるか</p> <p>(3) 病院職員が誇りや、やりがいを持てる職場づくりに向けてどう取り組んでいるか</p>
6	林 幸 次 ( 公 明 党 )	<p>1 高速交通機関の開通を見据えた新時代のまちづくりについて</p> <p>(1) 次期総合計画の策定について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	林 幸 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第5次基本構想基本計画の検証はどうか</li> <li>② 30年後(2045年)の都市像として描く飯田市の姿は何か</li> <li>③ リニア将来ビジョン、サイエンスパーク構想の位置づけはどうか</li> <li>④ 分野別の各種計画との整合はどうか</li> <li>(2) 地方創生戦略の推進について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定方針は</li> <li>② 移住者受け入れ推進における現状と今後の方針は</li> <li>③ 結婚・出産・子育ての現状と今後の対策は</li> <li>④ 地域産業の競争力強化や企業誘致への取組み推進をどう進めるか</li> <li>⑤ 周辺市町村との広域連携のあり方は</li> </ul> </li> </ul>
7	村 松 まり子 ( 公 明 党 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市民が安心できるマイナンバー制度とするためには <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) マイナンバー制度とは</li> <li>(2) 導入に伴う課題と対応は</li> <li>(3) 市民への周知と安心して利活用できる対応は</li> </ul> </li> <li>2 消費者教育の充実について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「消費者教育の推進に関する法律」の概要は</li> <li>(2) 飯田市における消費生活の相談について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全相談件数と年齢層別の相談件数は</li> <li>② 年齢層別の相談内容と対応及び結果は</li> <li>③ 相談業務の今後の課題は</li> </ul> </li> <li>(3) 学校における消費者教育の現状と今後の取り組みは</li> <li>(4) 地域における消費者教育の現状と今後の取り組みは</li> <li>(5) 市の消費者教育推進計画の策定は</li> </ul> </li> <li>3 情報通信技術の活用について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民生活や市政参画にどうかしていくか</li> </ul> </li> </ul>
8	森 本 政 人 ( 市 民 パ ワ ー )	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平和推進自治体として市長の政治姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 非核平和都市宣言を持ち平和市長会議に加盟する自治体として平和に対する市長の姿勢は</li> <li>(2) 地方自治体の長として沖縄に対する国の姿勢をどう考えるか</li> </ul> </li> <li>2 幹線道路網の整備について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 飯田市最大の産業集積地である松尾地区道路網の今後の整備方針は</li> </ul> </li> <li>3 新しい公共とまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な主体による協働のまちづくりの中で特に地域福祉分野ではどのような実態にあるか <ul style="list-style-type: none"> <li>① この分野での担い手の実態はどうか</li> <li>② その担い手の重要性をどのように考えているか</li> <li>③ 福祉有償運送はタクシー業界と競合すると思われるが、どう考えるか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>4 環境文化都市の推進について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ポイ捨て等防止市民条例施行後の検証として <ul style="list-style-type: none"> <li>① ごみの総量及び不法投棄は減ったか</li> <li>② 発泡スチロールを小さく割らずに出せるようリサイクルステーションの品目に加える考えはないか</li> <li>③ 民間で行っているポイント付き資源ごみ回収ボックスは市として導入できないか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
9	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>1 空き家対策について</p> <p>(1) 平成26年11月19日に成立し27年5月26日に全面施行された「空家等対策の推進に関する特別措置法」と「飯田市空家等の適切な管理及び活用に関する条例」との関係は</p> <p>(2) 市が作成する空家等対策計画について</p> <p>① 空家等に関する対策の対象とする地区及び対象とする空家等の種類に関する考え方は</p> <p>② 特定空家等に対する措置への対処に関する事項の規定は</p> <p>③ 家屋等の所有者や周辺住民からの相談に対する対応は</p> <p>(3) 特別措置法第15条に規定され国及び県が講ずるとされる、空家等に関する対策の実施に必要な財政上及び税制上の措置とは何か</p> <p>2 生活困窮者の自立支援について</p> <p>(1) 「まいさぼ飯田」が平成27年4月に開所した。相談者の状況は</p> <p>(2) 生活困窮者自立支援法に基づく任意事業の取組みはどうなっているか</p> <p>(3) 生活困窮者自立支援制度のきめ細やかな周知はどうか</p>
10	小 倉 高 広 ( 日 本 共 産 党 )	<p>1 公共交通及び高齢者等の移動支援について</p> <p>(1) 飯田市の公共交通の現状はどうなっているか</p> <p>① 「市民意識調査」による「市内の移動に不便を感じている人の割合（交通機関）」をどうみるか</p> <p>② 「乗り合いタクシー」の利用率を上げるにはどうするか</p> <p>(2) 福祉有償運送の現状はどうなっているか</p> <p>① 対象者及び業者は</p> <p>(3) 公共交通又は有償サービスを利用できない高齢者はどうしているか</p> <p>(4) 「地域支え合い活動推進補助事業」でNPO法人の移動支援を援助できないか</p> <p>① 「地域支え合い活動推進補助事業」とは</p> <p>② NPO法人の事業の利点をどう評価しているか</p> <p>2 公営住宅入居に際しての保証人要件について</p> <p>(1) 公営住宅の目的は何か</p> <p>(2) 低所得者・高齢者・障がい者等への特例にはどのようなものがあるか</p> <p>(3) 入居における保証人の要件はどうなっているか</p> <p>(4) 保証人要件を免除する特例を設けるべきだと思うがどうか</p> <p>3 教科書の採択と「教育再生首長会議」について</p> <p>(1) 飯田市では教科書の採択をどのように行っているか</p> <p>(2) 教科書の採択については、現場の教師の意見を尊重すべきだと思うがどうか</p> <p>(3) 「教育再生首長会議」とはどのような会か</p>
11	湊 猛 ( 会 派 の ぞ み )	<p>1 上村・南信濃の地域振興について</p> <p>(1) 今年10月で合併して節目の10年を迎えるが市長の思いは</p> <p>(2) 遠山郷・中山間地域振興担当専門幹と遠山郷観光振興係の役割と今後の活動は</p> <p>(3) 合併10周年記念事業を計画しているが飯田市の協働としての考え方は</p> <p>(4) 将来を見据えた遠山郷観光振興の考え方と方向性は</p> <p>2 過疎対策の現状と課題について</p> <p>(1) 過疎地域の現状と過疎地域自立促進特別措置法による対策は</p> <p>(2) 過疎対策事業債はどのように活用されてきたか</p> <p>(3) 過疎地域等の集落の課題と対策のポイントは</p> <p>① 過疎地域等自立活性化推進交付金の活用は</p> <p>② 地域経済循環創造事業交付金の取り組みは</p>

No.	氏名	項目・要旨
	湊 猛	③ 集落支援員設置導入の考えは
12	井 坪 隆 (会派みらい)	1 リニア中央新幹線への取組について (1) 現場に近い所への事務所の設置をどのように考えるか 2 技能労働者の育成について (1) 付加価値の再生産としての住宅建築について ① 技能労働者(主に大工さん)の確保・育成の重要性を、どのように考えるか ② 確保・育成の支援策について ③ 技能労働者の育成を通して、地元産材の利用促進につながる戦略への展開を考えられないか
13	原 和 世 (会派みらい)	1 飯田市次期総合計画とサイエンスパークの構築について (1) 地方創生と次期総合計画の組み立てに関して ① 国の地方創生を受けた地方版総合戦略策定に関し、飯田市ではこれまで同様な観点で施策推進してきたと思う。改めて今年度末までの策定に向けどのような観点を検討を進めるか、人口目標の経過と地域経済活性化プログラムの評価などをどのように活かすか ② 次期総合計画は地域も主体になって進めるようだがどのようなことを考えているか、その場合地域の自主的自立的な活動を目指すか (2) サイエンスパークの構築に関して ① サイエンスパークの構築は付加価値の再生産を創出することというが、構想も含め機能と事業予測についての展望は
14	熊 谷 泰 人 (会派のぞみ)	1 飯田市公共施設マネジメントについて (1) 公共施設マネジメントとは (2) 飯田市の公共施設マネジメント基本方針に対する市長の思いは (3) 公共施設マネジメントの推進方策について ① 目的別検討会議及び地域別検討会議の具体的内容は ア 庁内体制や構成団体は イ まちづくり委員会の役割は ウ 「飯田市次期総合計画」策定の進め方での、地区別懇談会及び分野別懇談会との関連は エ 公共施設等総合管理計画策定までのスケジュールは ② 広く市民への情報提供について ア 個別施設の状況について、細部にわたり現状分析し白書等としてまとめる考えは イ 基本方針策定時に行ったパブリックコメントに、小中学校の空き教室の市民利用を要望する意見があったが、小中学校の空き教室の現状と今後の見通しは ウ 余裕教室の市民利用の考えは ③ 市民の合意形成をどのように図っていくか ア シンポジウムやワークショップの開催、抽出型パブリックコメントやアンケートの実施の考えは イ 地域版目的別検討会議の設置はどうか (4) 基礎データとなる総人口や年代別人口の今後の見通しについて、地区ごとの状況を示す考えは (5) 飯田市次期総合計画の中に公共施設等総合管理計画を重点プロジェクトとして位置付けるべきでは
15	後 藤 荘 一 (日本共産党)	1 中心市街地の活性化について (1) りんご並木周辺に店舗を構える企業に対する支援の状況は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	後 藤 荘 一	(2) 経済産業省等からの補助の状況は (3) 起業に対する市の支援の考え方は 2 農業振興策について (1) 飯田市における遊休農地の状況はどう推移しているか (2) 遊休農地解消策として、豆・そば・麦に奨励金制度を設けてはどうか 3 奨学金制度について (1) 飯田市の奨学金の貸付及び償還の状況は (2) 償還一部免除の制度があるようだが、活用状況は (3) 給付型を提案したいが、飯田市に戻って来た人には戻って来た時点からの償還は全額免除したらどうか
16	清 水 勇 ( 会 派 の ぞ み )	1 旧飯田工業高校施設活用と南信州・飯田産業センターの今後の考え方について (1) 国土交通省が平成26年7月に「国土のグランドデザイン2050」を発表しているが、飯田市の取り組みと考えは (2) グランドデザインの中には飯田市にも関連した内容もあり、旧飯田工業高校活用のイメージに活かしていく考えは (3) 県知事に提出した旧飯田工業高校利活用に関する要望書の内容を飯田市としてどう考えるか (4) 南信州・飯田産業センターの今後の取り組みについて具体的な考えは 2 平成26年度の住宅新築状況と農振除外の内容について (1) 飯田市の住宅新築状況と農振除外の申請状況はどうか (2) 平成26年度、地方六団体が取り組んだ農地制度のあり方について、市長の考えは (3) 農業課の農振除外申請に対する取り組み内容は (4) 農振除外申請の対応について、農業課と農業委員会の考えは
17	古 川 仁 ( 日 本 共 産 党 )	1 人口減少社会における若者定住施策について (1) 飯田市次期総合計画における若者の定住施策は ① 地元での雇用状況は ② ふるさと就職ガイダンスの状況は ③ 若者の定住のための工夫は ア 雇用面では イ 住宅面では ウ 生活面では ④ 地元を思う心を養うための工夫は ア 学校では イ 家庭では ウ 地域では ⑤ 議会として「地域で子どもを育てるには」について政策提言を行ったが、その後の取り組みはどうか 2 飯田市の平和施策について (1) 戦後70年、飯田市の平和施策についての取り組みは ① 今年度予定している事業及び予算額は ② 市は「非核平和都市宣言」を行っているが、これに相応しい取り組みを行っているか ③ 各地域で平和に関する集会を開催する考えはあるか
18	山 崎 昌 伸 ( 会 派 の ぞ み )	1 地方分権改革の進展について (1) 地方分権改革の進展について、市長の認識は ① これまでの国による地方分権改革について、どのように考えているか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	山 崎 昌 伸	<p>② 地方六団体における議論のあり方と動きについて、どのように考えているか</p> <p>(2) 地方創生と地方分権の関係をどう考えているか</p> <p>(3) 大阪都構想を地方分権の視点から捉えた場合にどう考えるか</p> <p>① 大阪都構想は、地方分権を進める構想と考えるか</p> <p>② 大阪都構想は、広域行政のあり方にも一石を投じたとの見解もあるがどう考えるか</p> <p>③ 住民投票のメリット、デメリットをどう考えるか</p> <p>2 飯田市市民憲章と飯田市歌について</p> <p>(1) 飯田市市民憲章をどのように生かすか</p> <p>① 市民憲章が策定された経緯と目的はどこにあったか</p> <p>② 市民憲章は市民に浸透していると考えるか</p> <p>③ 市政において市民憲章をどのように生かそうとしてきたか</p> <p>④ 「環境文化都市宣言」との関係は</p> <p>⑤ 今後、どのように生かしていくか</p> <p>(2) 飯田市歌についてどのように考えるか</p> <p>① 飯田市歌が作られた経緯は</p> <p>② 飯田市歌はどの程度知られているか</p> <p>③ 市町村歌の存在をどう考えているか</p> <p>④ 今後、飯田市歌をどのように扱うか</p>
19	吉 川 秋 利 (会派のぞみ)	<p>1 航空宇宙産業クラスター形成支援について</p> <p>(1) 拠点工場の稼働状況とクラスターとしての現在の事業規模は</p> <p>(2) アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区による優遇制度はどのようなものが適用されているか</p> <p>(3) 今後についてはどのようなものが見込めるか</p> <p>(4) 大型航空機の将来性についてはどのような考えを持っているか</p> <p>(5) MRJなどのビジネス機についてはどのような見通しを持っているか</p> <p>(6) ビジネス機が発着できる飛行場の建設が必要と思うかどうか</p> <p>2 リニア中央新幹線開通に向けての飯田市を売り込むためのプロモーション事業について</p> <p>(1) 飯田市のブランディングをどのように考えているか</p> <p>(2) プロモーション事業について現在どのように進展しているか</p> <p>(3) 今後の展開についての考えは</p> <p>(4) ふるさと納税との連携についてはどう考えているか</p> <p>3 全国瞬時警報システムについて</p> <p>(1) 全国瞬時警報システム(J-ALERT)の機能と目的は</p> <p>(2) 「訓練・緊急地震速報」が放送されなかった理由は</p> <p>(3) この問題を危機管理としてどのようにとらえているか</p>

③第3回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成27年9月9,10日

No.	氏名	項目・要旨
1	竹村圭史 (会派のぞみ)	<p>1 市立病院の果たすべき役割と市民に対する理解醸成について</p> <p>(1) 飯田・下伊那の中核病院である市立病院が果たすべき役割とは</p> <p>① 市立病院における診療体制の基本となる考え方と求められる役割とは</p> <p>② 市立病院が目指す診療体制を構築するために、どのように考えるか</p> <p>③ 市立病院の現状をどのように考えているか</p> <p>(2) 市立病院の本来あるべき診療体制について</p> <p>① 市立病院の本来あるべき診療体制について市民に理解を得られているか</p> <p>② 市民が市立病院に求める意識と市立病院が目指す診療体制との間に「かい離」は生まれていないか</p> <p>(3) 市立病院として今後すべきことは何か</p> <p>① 市立病院の本来あるべき診療体制に近づけるため、これまで市民にどのようなことを行ってきたか</p> <p>② これまで以上に、市立病院が目指す医療体制を市民に理解していただくための広報施策が必要と考えるがどうか</p> <p>(4) 市民と市立病院の意識について市長の考えは</p> <p>2 音楽鑑賞教室について</p> <p>(1) 音楽鑑賞教室が開催されてきた経緯は</p> <p>(2) 音楽鑑賞教室に対する評価は</p> <p>(3) 今年度限りで音楽鑑賞教室は終了すると聞いているが、このことについてどのように受け止めるか</p> <p>(4) 今後、飯田市が独自に音楽鑑賞教室を開催していくことも一案と考えるがどうか</p>
2	木下徳康 (会派のぞみ)	<p>1 第三次整備事業を終えて1年を経過した飯田市立病院の現状は</p> <p>(1) 周産期センター、がん診療・緩和ケアセンターは計画通りに機能しているか</p> <p>(2) 救命救急センターはどうか</p> <p>(3) 飯田下伊那診療情報連携システム(ism-Link)の進捗状況はどうか</p> <p>① 飯田下伊那診療情報連携システムとは</p> <p>② システムの現状はどうか</p> <p>ア 開示、閲覧の医療機関数は、またシステム参加患者数はどうか</p> <p>イ 診療・医療の現場でどう生かされているか</p> <p>(4) 今後の展望として、三次医療圏の機能をもたせることはどうか</p> <p>① リニア時代に向けて、病院機能の充実の考えは</p> <p>2 空き家対策について</p> <p>(1) 空き家対策の目的は何か</p> <p>(2) 当市のいわゆる空家条例施行2ヵ月となるが現状はどうか</p> <p>(3) 今後の取り組みは</p>
3	吉川秋利 (会派のぞみ)	<p>1 航空宇宙産業と高等教育機関について</p> <p>(1) 地域産業としての航空宇宙産業の必要性をどのように考えているか</p> <p>(2) 航空機システム共同研究講座の設置についてどのように参画していくか</p> <p>(3) 信州大学南信州キャンパスをどのように考えているか</p> <p>(4) デザイン系大学院大学の設置を考える会はどのように進めるか</p> <p>(5) 大学院大学設置可能性調査の評価は</p> <p>(6) 現在おこなわれている事業構想大学院大学の位置づけと、今後の展開についてどう考えているか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	吉川 秋利	<p>(7) 学輪IIDAやフィールドスタディの効果は</p> <p>(8) 飯田デザインバレーを構築すべきと考えるがどうか</p> <p>2 プレミアム付商品券について</p> <p>(1) そのそもその目的は何であったか</p> <p>(2) 販売方法について問題はなかったか</p> <p>(3) 効果についてはどのように判断しているか</p>
4	原 和 世 (会派みらい)	<p>1 「公共施設マネジメント基本方針」に基づく推進方策について</p> <p>(1) 市の財政状況から見た公共施設の適正規模とは</p> <p>(2) 具体的な実施方策は</p> <p>2 知の拠点構想に関して</p> <p>(1) 拠点構想の核となる機能の実効性に関してその評価は(事業費と期待される効果)</p>
5	福 沢 清 (会派みらい)	<p>1 いわゆる「核のゴミ」の最終処分について</p> <p>(1) 政府は原子力発電所から発生した「核のゴミ」の最終処分地の選定を各自治体の公募方式から、国の主導による方式に変更した。飯田市はこれについてどう考えるか</p> <p>(2) 全都道府県で県単位の説明会が開かれたが、飯田市は参加したか</p> <p>(3) 飯田市が「核のゴミ」の最終処分場候補地に選ばれる可能性はあると思うが、どのように対応するか</p> <p>2 生活困窮者の自立支援について</p> <p>(1) 飯田市における生活困窮者の現状はどうか</p> <p>(2) 生活困窮者自立支援法の制定で飯田市の取り組みに変化はあるか</p> <p>(3) 生活困窮者の自立支援のため庁内横断的組織が必要ではないか</p> <p>(4) 飯田市として生活困窮者のための自立支援計画が必要ではないか</p>
6	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ)	<p>1 安心・安全のまちづくりについて</p> <p>(1) 防災・減災における「自助」「共助」「公助」の定義は</p> <p>(2) 「自助」の現状と今後のあり方は</p> <p>① 市民意識の高まりは</p> <p>② 食料・飲料水等の備蓄の状況は</p> <p>③ 「自助」の拡充にどう関わるか</p> <p>(3) 「共助」の現状と今後のあり方は</p> <p>① 災害時相互応援協定の締結の状況は</p> <p>② 地区防災計画の策定状況は</p> <p>③ 自主防災組織の活動をどのように支援していくか</p> <p>(4) 「公助」の現状と今後のあり方は</p> <p>① 福祉避難所の指定状況は</p> <p>② 緊急時の情報伝達手段の整備方針は</p> <p>ア 同報系防災行政無線について今後のあり方は</p> <p>イ 緊急時の情報伝達手段のあるべき姿は</p>
7	熊 谷 泰 人 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市街地の道路整備と土地利用について</p> <p>(1) 都市計画道路羽場大瀬木線の一部開通後の道路状況について</p> <p>① 都市計画道路知久町妙琴線(通称白山通り)の状況は</p> <p>ア 交通量の変化は</p> <p>イ 今後の改良計画は</p> <p>ウ 無電柱化の計画は</p> <p>② リニア中央新幹線工事発生土の運搬が見込まれる道路の改良要望は</p> <p>(2) 飯田市街地の土地利用計画について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	熊 谷 泰 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 白紙となった丸山・羽場第三・四地区土地区画整理事業地の今後の土地利用計画は <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 地区計画策定の考えは</li> <li>イ 袋小路化する宅地開発の規制はできないか</li> </ul> </li> <li>② 「まちの活性化・都市デザイン競技」の提案をどのように生かしていくか <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 記念シンポジウム後の市民の反応は</li> <li>イ 提案の実現性は</li> </ul> </li> </ul> <p>2 入札制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市の入札における基本的な考えは <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一般競争入札と指名競争入札とに分ける基準は <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 総合評価落札方式を行う基準は</li> <li>イ 委託業務に一般競争入札を用いない理由は</li> </ul> </li> <li>② 指名競争入札における指名基準は</li> <li>③ 随意契約の基準は</li> </ul> </li> <li>(2) 電子入札導入の考えは</li> </ul>
8	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>1 地方創生の取り組みにおける飯田市の「人口ビジョン」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 策定の状況は</li> <li>(2) 自然動態と社会動態の推移の分析と今後の見通しは。また、そこから見えてきた今後の課題は</li> <li>(3) 将来的にも人口動態がマイナスであることが、地域経済と市財政に対してどのような影響を与えるか</li> <li>(4) 飯田市が目指すべき人口の将来展望の考え方は</li> </ul> <p>2 子どもの医療費の窓口無料化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもが医療機関を受診した場合の医療費の支払いは、現在どのようになっているか</li> <li>(2) 子どもの医療費に対して行政が助成することについて、市長はどのように考えるか</li> <li>(3) 子どもの医療費の窓口無料化を実現しようとした場合の課題は何か</li> </ul>
9	古 川 仁 ( 日 本 共 産 党 )	<p>1 飯田市の介護保険事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新たに始まる新総合事業の進捗状況は</li> <li>(2) 国が7月に求めた、いわゆる「補足給付に係る資産調査」を市は実施したか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「補足給付に係る資産調査」とは、どのようなものか。また、その目的は</li> <li>② どのように実施をしたか</li> <li>③ 法的根拠は何か。また、違法性はないか</li> <li>④ 介護保険事業者及び利用者からの声は</li> </ul> </li> <li>(3) 介護報酬の改定後、市として介護保険事業者の運営状況を把握しているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各事業所へアンケートなど実施したか</li> <li>② 介護職員の処遇の実態はどうか</li> <li>③ 介護職員の確保を行政としてどう支援しているか</li> </ul> </li> </ul>
10	清 水 可 晴 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 森林整備の推進と再生可能エネルギーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 森林整備と森林総合戦略の策定は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 森林を育成し、森林の恵みを全て利用する実態は</li> <li>② 森林総合戦略の策定は</li> </ul> </li> <li>(2) 木質バイオマスの戦略的利用促進は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 木質バイオマス利用の現状は</li> <li>② 木質バイオマスの戦略的熱利用の検討状況は</li> <li>③ 木質バイオマスの戦略的利用促進に向けた今後の取り組みは</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏名	項目・要旨
	清水可晴	2 障がい者の就労支援について (1) 飯田市障がい者就労施設等からの物品等調達の現状と今後は ① 調達を推進すべき物品等は何か、また、対象となる施設等は ② 障害者雇用が拡大できるよう、物品等の調達を拡大できないか
11	林 幸 次 ( 公 明 党 )	1 未来の人材を育む、飯田市の教育行政について (1) 新教育委員会制度について ① 新教育委員会制度に対する市教育委員会の見解はどうか ② 市長が教育行政に大きく関わり、権限と責任を持つことへの見解はどうか ③ 教育委員長と教育長の一本化及び総合教育会議の設置義務に対する飯田市の対応はどうか ④ 教育の目標や施策の根本的な方法などを定める「大綱」の策定方針はどうか ⑤ 新制度では、首長の権限・責任が増大し、教育行政に大きく関わることになるが、政治的中立性・公平性の確保をいかに保つか (2) 学校教育法改正に伴う義務教育学校(小中一貫教育の制度化)について ① 今回の学校教育法改正に伴う義務教育学校についてどう考えるか ② 義務教育学校の導入についての見解はどうか
12	森 本 政 人 ( 市 民 パ ワ ー )	1 天龍峡の活性化と歴史的価値の顕彰について (1) 天龍峡活性化の現状は ① 百年再生の取り組み状況は ② 三つの道のひとつである飯田線の位置づけは ③ 広域観光との連携は (2) 仮称「天龍峡大橋」をどう活用するか ① 旅行者への売り込み、キャラバン隊等の取り組みは (3) 飯田線の天龍峡における歴史的価値は ① 飯田線全線開通の功労者である「川村カ子」の顕彰は ② 飯田線の歴史的価値を今後どう活用するか 2 産業振興について (1) 産業振興の知の拠点の具体的内容は (2) 知の拠点における、この地を支えてきた伝統産業の位置づけは ① この地域で育てるべき伝統産業は ② その伝統産業の後継者づくりは
13	小 倉 高 広 ( 日 本 共 産 党 )	1 「地方創生」について (1) 市は「地方創生」について、どのように認識しているか ① 「地方創生」の経過と目的は何か ② 地域の衰退の原因は何か (2) 市は「人口ビジョン」及び「飯田市版総合戦略」をどのように作成するか ① 市の人口減少対策は ア 人口減少対策の位置づけは、「最重要課題」か「重要課題の一つ」か「取り立てて大きな課題と位置づけず」か イ 人口減少対策の重点は、「より子育て支援」か「より定住・移住促進」か ウ 人口減少対策の数値目標は、設置するか(人口目標、出生率目標、移住者数の目標、その他) エ 人口減少対策の事業経費は、「増やす」か「現状維持」か「減らす」か ② 作成の手順及び組織は、どのようにするか ③ 地区での取り組みは

No.	氏名	項目・要旨
	小倉 高 広	<p>(3) 「飯田市版総合戦略」は、地域の産業と住民の暮らしを守ることにより力を入れた計画にすべきだと思うが現在の取り組み状況はどうか</p> <p>① 中山間地域の振興策は</p> <p>② 「地域循環型の経済」は</p>
14	村松 まり子 (公明党)	<p>1 子どもの貧困対策の推進について</p> <p>(1) 子どもの貧困に関する市の現状は</p> <p>① 実態は</p> <p>② 市の現在の取組みは</p> <p>(2) 学校における対応は</p> <p>① 学力保障と学習機会の提供は</p> <p>② プラットホームとしての学校の役割は</p> <p>③ 今後の取組みは</p> <p>(3) ひとり親家庭の親の就業支援など「子どもの貧困」と関わる所得の格差解消に向けた取組みは</p> <p>(4) 生活困窮者自立支援法における学習支援事業の取組みは</p> <p>① 相談の状況と関係機関との連携は</p> <p>② 学習支援事業とは</p> <p>③ 実施の考えは</p> <p>2 健康増進の充実について</p> <p>(1) データヘルス計画の策定の取組みは</p> <p>(2) 生活習慣病の予防対策の取組み状況は</p> <p>(3) 市民に広げる健康づくりの取組み状況は</p> <p>(4) ロタウイルスワクチン接種費用の助成の考えは</p>
15	後藤 莊一 (日本共産党)	<p>1 マイナンバー（番号）制度について</p> <p>(1) マイナンバー（個人番号）で管理される個人情報現在どこまでになっているか</p> <p>(2) 特定個人情報保護評価について</p> <p>① 法律では自治体に、「個人番号」をつける前に、特定個人情報保護評価を行うよう求めているが、飯田市ではどのような評価を行ったか</p> <p>② 情報の漏えいを防ぐためには、事前に十分な対策を行うべきだが、今回の保護評価で十分なものとするか</p> <p>(3) 「番号法」に規定してある「特定個人情報保護委員会」あるいは第三者機関の監視機関を飯田市として設ける考えはないか</p> <p>(4) 通知カードの発送について</p> <p>① 市民の手元にはいつ頃届くか</p> <p>② 直前の住所変更への対応はどうか</p> <p>③ 通知の発送準備作業はどのように行っているか</p> <p>(5) 事業者の番号管理について、小規模事業者などは個人番号の保管管理など負担が重いとされるが、市へ情報は寄せられているか</p> <p>(6) 利用拡大法案が今国会で可決されたが、飯田市としての考えは</p> <p>2 平和の問題について</p> <p>(1) 「平和安全法制」について、市長の考えは</p> <p>(2) 平成12年6月議会での「平和記念館（仮称）の設置について」の請願が採択され、市側へ設置を申し入れ、現在「資料室」が設置をされている状況である。常設展示の記念館設置の考えは</p>
16	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<p>1 身近な防火設備について</p> <p>(1) 消防統計から見る直近5年の市の発災状況は</p> <p>① 発生件数</p> <p>② 発生形態</p>

No.	氏名	項目・要旨
	新井 信一郎	<p>(2) 市民生活に身近な防火施設には、どのような設備があるか</p> <p>① 個人で備える物は</p> <p>② 公で整備する物は</p> <p>(3) 防火設備の配置状況は</p> <p>① 個人で設置する物は</p> <p>② 公で整備する物は</p> <p>(4) 今後の設備配置計画は</p> <p>① 個人で設置する物は</p> <p>② 公で整備する物は</p> <p>2 土砂災害からみる森林空間の保全・利活用及び作業従事者に対する安全措置基準について</p> <p>(1) この地域で発生した、大規模土石流災害は</p> <p>(2) その後、対策事業の結果は</p> <p>① 林道整備の現状は</p> <p>② 市内にある砂防堰堤の状況は把握しているか</p> <p>(3) 森林、里山の整備状況等は</p> <p>① 整備と活用の現状は</p> <p>② 林業、造園業に関する労働災害発生状況を把握しているか</p> <p>③ 市が発注する工事における作業者の安全措置の状況は</p> <p>④ 新基準としてツリークライミングに対する技術取得者を採用し、国際基準である安全規格（ISA）普及をすべきと考えるかどうか</p> <p>3 2018年に日本で開催予定である「アジアパシフィックツリークライミングチャンピオンシップ」大会誘致への取り組みについて</p> <p>(1) 2018年世界人形劇フェスティバル（AVIAMA総会）と「アジアパシフィックツリークライミングチャンピオンシップ」大会と共に誘致をし、小さな世界都市実現に取り組みないか</p> <p>(2) 地域にある樹木を活用し、ツリークライミング等が身近に体験できる環境文化都市としての環境整備は</p> <p>(3) あらゆる世界大会等に市民が参加協力できるよう、外国人とのコミュニケーション能力向上のために、英会話・文化風習理解セミナーなど、公民館活動等を活用した支援の考えは</p> <p>4 リニア中央新幹線開業に向けた産業誘致について</p> <p>(1) 長野県が、国へ提案する政府関係機関の移転候補地として飯田市に「産業技術総合研究所の臨界副都心センター（生命工学領域）」を挙げた意図は</p> <p>(2) 太田昭宏 国土交通大臣、藤田耕三 国土交通省 鉄道局長らの発言に「この地域は国と一緒に発展させなければならないエリア、また、国土形成にとって重要なプロジェクト」とあるが、産業誘致の今後の方向性は</p> <p>(3) 東日本大震災を経験し、国土の内陸部の役割が問われている。産業誘致のために伊那谷全体での連携をさらに強力にしていく必要があると考えるかどうか</p>
17	木下 容子 (市民パワー)	<p>1 読書活動の推進について</p> <p>(1) 「飯田市立図書館サービス計画」の推進について</p> <p>① 「飯田市立図書館サービス計画」の施策展開状況はどうか</p> <p>② 本と人が出会い、学びが広がる図書館を目指すためには、市民との協働が欠かせないと考えるかどうか</p> <p>③ 小中学生・高校生の読書活動をどう進めていくか</p> <p>(2) 「はじめまして絵本事業」について</p> <p>① 昨年まとめた「はじめまして絵本アンケート」の結果をどうとらえているか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 容 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 選択できる本の種類をもっと増やせないか</li> <li>③ 小学校入学時に2冊目をプレゼントするセカンドブックの取り組みは考えられないか</li> <li>(3) 親しまれる図書館への取り組みは <ul style="list-style-type: none"> <li>① 図書館の利用時間の拡大は考えられないか</li> <li>② 借りた本の履歴を目に見える形で残す「読書通帳」の取り組みはできないか</li> <li>③ 職員の意識、資質、技術の向上に向けての取り組みは</li> </ul> </li> <li>2 中心市街地活性化について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 交流や産業分野を活かした拠点をつくることでまちの賑わいに繋がられないか</li> <li>(2) 中央公園を活用した賑わいの創出を考えられないか</li> </ul> </li> </ul>
18	清 水 勇 ( 会 派 の ぞ み )	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 三遠南信自動車道・リニア中央新幹線を活かした、観光をどのように考えるか <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 観光客を呼ぶために何が必要と考えているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 観光地整備について具体的な取り組みと考えは</li> <li>② 各観光地への誘客をどのように取り組むか</li> <li>③ 短期誘客と年間の誘客及びリピーターを増やすための取り組みをどのように進めていくか</li> <li>④ 食文化、食を活かした誘客について、市の考えはどうか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 天龍峡再生事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 天龍峡再生事業の今後についてどのような取り組みを考えているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 天龍峡インター周辺整備、遊歩道整備の取り組み状況は</li> <li>② 誘客を増やすためにどのような取り組みが必要と考えるか</li> <li>③ 天龍峡温泉交流館整備事業について現状の考えは</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

④第4回定例会代表質問通告表

平成27年12月7日、8日

No.	氏名	項目・要旨
1	湊 猛 (会派のぞみ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市長の政治姿勢について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成27年年頭所感に掲げた事業構想の今年度の取り組み状況は</li> <li>(2) 就任3期12年目を迎えての市長の想いと総括は</li> </ol> </li> <li>2 平成28年度予算編成について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 今後の財政運営における行財政改革とリニア関連整備・戦略的投資とのバランスは</li> <li>(2) 来年度予算編成において「戦略的地域づくり」をどう「見える化」するか</li> </ol> </li> <li>3 総合的に取り組む重要政策について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 当地域への高等教育機関設置、人材育成など、知の拠点づくりを推進する具体的政策は</li> <li>(2) 将来人口を踏まえた政策について                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 市の総人口の将来展望は</li> <li>② 市が取り組む人口増政策は</li> <li>③ 議会が提言した健康寿命延伸に向けた総合的取り組みは</li> </ol> </li> <li>(3) 飯田市公共施設マネジメント基本方針の具現化は</li> </ol> </li> <li>4 リニア中央新幹線関連事業について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業を円滑に推進するためJR東海、県、広域連合と今まで以上に緊密な連携が必要と思うが、どう構築するか</li> <li>(2) 用地取得、代替地確保、現場事務所機能の設置など、影響を受ける住民の意を重視した市の取り組みは</li> <li>(3) 地域の将来の発展に寄与する発生土の活用に対する市の考えは</li> </ol> </li> <li>5 安全安心に暮らせる地域政策について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 10年目を迎える地域自治組織について、役員への負担増、組合未加入など深刻化する課題への市の対応は</li> <li>(2) 「飯田市空家等の適正な管理及び活用に関する条例」が施行されたが、条例にある「市の責務」を具体化する取り組みは</li> <li>(3) 「飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」が施行されたが、条例の効果を上げるための取り組みは</li> <li>(4) 再生可能エネルギーを地域経営に生かす地域環境権の現状と課題、今後の取り組みは</li> <li>(5) 安全安心な生活インフラの要である道路、河川・用水路の整備に対する今後の対応は</li> </ol> </li> <li>6 教育・医療・福祉政策について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小中連携・一貫教育について                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 導入後3年目を迎えての評価は</li> <li>② 議会が提案した地域で子どもを育てる仕組みづくりへの取り組みは</li> </ol> </li> <li>(2) こども家庭応援センター(ゆいきっず)について                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開設後の現状は</li> <li>② 有効活用するための積極的な取り組みは</li> </ol> </li> <li>(3) 2018年世界人形劇フェスティバルについて                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の意義は</li> <li>② 開催へ向けての準備は</li> </ol> </li> <li>(4) 地域医療充実のため、飯田市立病院の経営安定化と医師・看護師等の確保は</li> <li>(5) 市民、関係団体、行政が一体で取り組む地域福祉計画の策定は</li> </ol> </li> <li>7 若者が帰ってこられる産業づくりについて</li> </ol>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湊 猛	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 南信州の農産物などを生かした、農林・水産・商工連携による6次産業化への政策は</li> <li>(2) 農業従事者の高齢化、TPPなど経営環境の悪化が深刻化する農業に対する市の対応は</li> <li>(3) リニア・三遠南信時代へ向けた観光政策について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 着手すべき観光政策は</li> <li>② 大都市圏との交流を双方向化するための政策は</li> </ul> </li> <li>(4) 航空宇宙産業クラスターや飯田メディカルバイオクラスター、環境産業分野等への政策的取り組みは</li> <li>(5) 地方創生・総合戦略に基づく企業誘致や産業集積について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 企業誘致や産業集積の現状は</li> <li>② 飯田市への本社機能移転を促す市の政策は</li> </ul> </li> <li>(6) 温泉トラフグ・信州サーモン・遠山地鶏・ジビエ料理などの地域産品を活かした、遠山郷産業振興の取り組みは</li> </ul>
2	小 倉 高 広 ( 日 本 共 産 党 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市長の政治姿勢と来年度予算編成について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市長の政治姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 来年の市長選を控え3期目も終盤に差しかかっている市長が成果として考えることは何か</li> <li>② 安保法制、いわゆる戦争法についての市長の見解は</li> <li>③ アベノミクスにより貧困・格差が広がったがどうみるか</li> <li>④ 人口減少時代のまちづくりへどう対応するか</li> </ul> </li> <li>(2) 来年度の予算編成について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 介護・福祉・医療について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 介護報酬の引き下げによる介護事業所への影響は</li> <li>イ 国民健康保険の「広域化」による影響は <ul style="list-style-type: none"> <li>i 一般財源からの繰り入れが廃止されることはないか。また保険料が引き上げられることはないか</li> </ul> </li> <li>ウ 国民健康保険税の負担軽減策を拡大すべきだと考えるがどうか <ul style="list-style-type: none"> <li>i 低所得者層の負担を応能負担の割合を引き上げるにより軽減すべきだと考えるがどうか</li> <li>ii 短期証の発行状況はどうなっているか</li> <li>iii 差し押さえの現状はどうなっているか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>エ 精神障がい者の福祉医療の対象を2級まで拡大することはできないか</li> <li>オ 生活保護費の削減を補てんする一時扶助の適用、冬季加算の特別基準の利用状況はどうなっているか</li> <li>カ 生活保護者・低所得者などに対する福祉灯油の支給を行うべきだと考えるがどうか</li> <li>キ 子ども子育て支援法施行により飯田市の責任はどう変わるか <ul style="list-style-type: none"> <li>i 年少扶養控除のみなし規定の廃止に伴う保育料の廃止による負担増に対し市が補助する考えはないか</li> <li>ii 第3子以降の保育料を無料にすべきだと考えるがどうか</li> </ul> </li> <li>ク 学童保育の対象を6年生まで拡大し定員を増やすことはできないか</li> </ul> </li> <li>② 子どもたちの健全な発達のための学校教育について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 小中連携・一貫教育の状況は</li> <li>イ 教師の過重負担の現状はどうか</li> <li>ウ 全国学力テストの中止を国県に申し入れるべきだと考えるがどうか</li> </ul> </li> <li>③ リニア中央新幹線について</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏名	項目・要旨
	小倉 高 広	<p>ア 市は要望や不安など市に持ち込まれる移転にかかわる補償金をはじめとする用地や生活設計等の住民の声に責任をもって応える窓口を設置すべきだと考えるがどうか</p> <p>イ 移転先として自らの土地が農振区域のために移転できない人の農振計画を見直す考えはないか</p> <p>ウ 上郷北条から黒田非常口までのトンネルの工法を山岳工法からシールド工法に変更するとの検討が提案されたが市の考えはどうか</p> <p>④ 地域内で循環する経済の構築について</p> <p>ア TPPの大筋合意が飯田市の農業に与える影響はどうか</p> <p>イ 飯田下伊那管内の労働者の雇用や賃金の状況はどうなっているか</p> <p>ウ 商業支援策として、住宅リフォームの「商店版」を創設すべきだと考えるがどうか</p> <p>エ 中小企業振興条例を創設すべきだと考えるがどうか</p> <p>⑤ 災害対策について</p> <p>ア 個人住宅または民間施設の耐震化施策はどうなっているか</p> <p>イ 市として浜岡原発の廃炉を求めるよう各機関に働きかけるべきだと考えるがどうか</p> <p>ウ 市は福祉避難所について検討しているか、また今後の課題は何か</p> <p>⑥ 自治組織について</p> <p>ア まちづくり委員会の仕事が多すぎて役員のなり手がないと聞くが現状はどうか</p> <p>イ アに対して市が考えている対策は何か</p> <p>ウ まちづくり委員会の事務を専門に担う職員を配置すべきだと考えるがどうか</p>
3	原 和 世 (会派みらい)	<p>第5次基本構想・基本計画の9つの政策を次期につなげるため</p> <p>1 経済力が強いまちづくりに関して</p> <p>(1) ものづくりの強みを更に発揮するために</p> <p>① 知の拠点形成における飯田市の役割とスタンス及び財政負担は</p> <p>② 次世代の産業とする航空宇宙産業が地域経済に及ぼす効果は</p> <p>③ 裾野の広い産業構造の観点で技能労働者の育成に対する考えは</p> <p>④ 新たな飯田市農業振興計画の策定の考えは</p> <p>2 地育力による人づくりに関して</p> <p>(1) これまでに培った飯田の資源を活かすために</p> <p>① 次代を担う子どもたちの育成に当たる指導者に視点を置いた支援は</p> <p>② スポーツ芸術の環境整備の観点で新市民ホール・新体育館・芝生のグラウンドなどの整備に関する構想は</p> <p>3 健やかに安心して暮らせるまちづくりに関して</p> <p>(1) 高齢社会のまちづくりを推進する社会システムづくりのために</p> <p>① 地域福祉社会を支える自治組織の仕組みは</p> <p>② 看護師不足事態を見据えた取り組みは</p> <p>③ 地域医療充実のために飯田下伊那診療情報連携システムの課題と改善のための方策は</p> <p>4 暮らしと生命を守る安心安全のまちづくりに関して</p> <p>(1) 住民の身近なところで安全を確保できる取り組みのために</p> <p>① 自主防災会の機能強化のために地区ごとの専任防災リーダー養成の必要性は</p> <p>② 地域防災の要である消防団の組織強化の方向性は</p> <p>5 人の営みと自然・環境が調和したまちづくりに関して</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	原 和 世	<p>(1) 水素など新しいエネルギーに着目したまちづくりのために</p> <p>① 水素エネルギー社会を次世代のまちづくりとして取り組むことへの考えは</p> <p>6 地域の自然・歴史・文化を活かすまちづくりに関して</p> <p>(1) 地域に継承されてきた伝統行事・文化を継承していくために</p> <p>① 祭り・伝統文化伝承条例を制定することは</p> <p>7 自立連携したまちづくりに関して</p> <p>(1) 身近なところで住民自治の意思決定をしていくために</p> <p>① 地域自治組織へ移行の原点に立ち返って今日の自治組織を見直す考えは</p> <p>8 交流と連携によるまちづくりに関して</p> <p>(1) 住んでいる地域の情報発信のために</p> <p>① 自治振興センターや学校などが地域の情報サイトとして機能が発信できる様な支援は</p> <p>9 市民と共に進める行政経営に関して</p> <p>(1) 公共施設の資産管理を効果的に進めるために</p> <p>① 資産管理について長期的なビジョンとプラン策定をする考えは</p> <p>(2) 行政評価システムをより効果的にするために</p> <p>① 重要な政策・事業等に関し政策等の実施にかかる財源措置と、将来コスト及び効果を明示することの考えは</p>
4	村 松 ま り 子 ( 公 明 党 )	<p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 平成28年度の市政経営の方針と予算編成について</p> <p>① 牧野市政3期目の最終年度となる28年度の市政経営の方針は</p> <p>② 3期12年の集大成となる新年度の予算編成において目指すものは何か</p> <p>2 次期総合計画の策定について</p> <p>(1) 第5次基本構想・基本計画の総括と成果はどうか</p> <p>(2) 次期総合計画の策定に向けた市長の基本的な考えは</p> <p>(3) 次期総合計画の策定における具体的な取組は</p> <p>3 11月14日に発表された「飯田市版総合戦略」(素案)について</p> <p>(1) 地方創生に向けた考え方は</p> <p>(2) 飯田市「人口ビジョン」の根拠となる考え方は</p> <p>(3) 4本の柱の基本目標と施策の展開は</p> <p>(4) 産業振興と地域振興の「知の拠点」づくりの考えは</p> <p>(5) 南信州、三遠南信などとの広域連携にどう取組むか</p> <p>4 リニア中央新幹線の取組について</p> <p>(1) リニア本体工事関連について</p> <p>① 進捗状況及び今後の予定について</p> <p>ア 駅部(上郷北条地域)の状況は</p> <p>イ 明かり区間(座光寺地域)の状況は</p> <p>② 環境影響関連について</p> <p>ア 残土発生箇所(松川・黒田(今宮)・土曾川(唐沢)の3抗口)の用地取得に向けての状況と今後の予定は</p> <p>イ 水質調査の現在までの進捗状況と今後の見込みは</p> <p>(2) 社会基盤整備関連について</p> <p>① 「リニア駅周辺整備検討会議」の開催状況は</p> <p>② 国道153号及びスマートインターチェンジからのアクセス道路に係る現在までの進捗状況と今後の予定は</p> <p>③ スマートインターチェンジの現在までの進捗状況と今後の見込みは</p>

No.	氏名	項目・要旨
	村松 まり子	<p>(3) 戦略的・地域づくり関連について</p> <p>① リニア未来都市ブランディング事業の現在までの進捗状況は</p> <p>② 今後の進め方において、飯田市次期総合計画とリニア推進ロードマップとの関係は</p> <p>5 医療・介護の充実について</p> <p>(1) 県が進めている「地域医療構想」をどう考えるか</p> <p>(2) 平成28年度診療報酬改定の影響は</p> <p>(3) 「新公立病院改革ガイドライン」に沿った「新公立病院改革プラン」の取組は</p> <p>(4) 地域がん診療連携拠点病院の充実を図るための取組は</p> <p>(5) 地域包括ケアシステムの構築に向けた進捗状況と今後の取組は</p> <p>6 子ども・若者支援について</p> <p>(1) 教育に係る経済的負担の軽減策は</p> <p>(2) 若者の就労支援の取組は</p> <p>(3) 市として取組む「結婚支援」は</p> <p>7 女性の活躍推進について</p> <p>(1) 今年8月に成立した「女性活躍推進法」を実効あるものにするための市の取組は</p> <p>(2) マタニティハラスメントやセクシャル・ハラスメントなどあらゆるハラスメントに対応する体制は</p> <p>(3) 男性も育休が取れる職場づくりは</p>
5	清水 可晴 (市民パワー)	<p>1 リニア・三遠南信自動車道を見据えた市長の政治姿勢と市政経営について</p> <p>(1) 牧野市政3期12年目の集大成として、新年度予算編成にあたっての政策課題及び年頭所感の策定と、来秋の市長選への思いは</p> <p>(2) 次期総合計画における将来の人口目標の設定と10万都市の維持は</p> <p>(3) 行財政改革と人事政策は</p> <p>① 公立保育所民営化方針を変更し、市民の理解と合意に基づき、公立と民間が地区内で共存する保育園運営と保育の質を確保すべきと考えるが、どうか</p> <p>② 公立保育園のクラス担任は正規職員を配置して運営しているか</p> <p>③ 入札制度改革と公契約条例制定に向けての検討状況は。また、担当の専門職員を配置して取り組む考えは</p> <p>④ 職員の定員適正化計画と今後の職員定数管理の見通しは。また、時間外勤務の実態は</p> <p>⑤ 上村・南信濃村との合併後10年が経過する中で、合併を検証し、分析したか。今後も人的、財政的にきめ細かな支援策が必要だが、その考えはあるか</p> <p>⑥ 各種選挙における選挙権が満年齢18歳以上に引き下げられたが、若年層の選挙啓発事業の取組みは</p> <p>⑦ 県の現地機関見直しへの対応と南信運輸免許センター誘致の見通し</p> <p>(4) リニアと三遠南信自動車道を見据えたまちづくりは</p> <p>① リニア事業推進にあたり、地権者の思いをどう受け止め、JR東海・県等関係機関といかに連携して取り組むか</p> <p>② 三遠南信自動車道天龍峡インター周辺の土地利用を道の駅設置等で有効活用することや、天龍峡大橋(仮称)を活用することにより、天龍峡観光の活性化策は</p> <p>③ 小さな世界都市をめざす受け皿として、国際会議やスポーツと産業が融合する拠点づくり構想を描いているか</p> <p>2 活力ある産業振興と地域経済の活性化について</p> <p>(1) 市長が発表したサイエンスパーク構想の具現化と起業家の育成や研究開発支援は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	清 水 可 晴	<p>(2) TPP交渉が大筋合意したことに対する市長の受け止めと、自由貿易や規制緩和の影響は。特に当市への農業等はどうか</p> <p>(3) 第2期中心市街地活性化計画の推進とまちの顔づくりへの事業展開は</p> <p>3 保健・医療・介護・福祉の充実について</p> <p>(1) 医療介護総合確保推進法に基づき、利用者の視点に立って、切れ目のない医療及び介護の供給体制を推進するための、自立と尊厳を支える地域包括ケアシステムの構築は</p> <p>① 地域包括ケアシステム構築に向けて取り組みの現状と課題は</p> <p>(2) 生活困窮者自立支援に向けて、飯田市生活就労支援センター「まいさぼ飯田」の事業を検証しつつ、関係機関による連絡会議を充実させ、相談事業やいわゆる中間的的就労支援を段階的に実施する考えは</p> <p>(3) 子ども・子育て支援新制度への移行を検証し、認定こども園及び幼稚園の保育料の格差を是正する考えは</p> <p>(4) 特別養護老人ホーム飯田荘の改築計画の取り組みの現状は</p> <p>4 人づくりの教育を充実し、平和で明るい社会づくりについて</p> <p>(1) 平和・人権教育、命の大切さを認識させる教育は</p> <p>(2) 携帯電話、スマートフォン、インターネット通信など、メディアに対する児童・生徒への影響とその対策は</p> <p>(3) 幼保小の連携推進計画を策定する考えは</p> <p>(4) 不登校児童・生徒の現状と支援は</p> <p>5 環境に配慮した安全・安心の持続可能なまちづくりについて</p> <p>(1) 地震防災・風水害に対する想定外を想定する対策は</p> <p>(2) 人口減少や水需要の減少を踏まえた今後の上下水道事業は</p> <p>(3) 身近な生活関連道路・河川・雨水対策の予算確保は</p>

⑤第4回定例会関連質問通告表

平成27年12月7日、8日

No.	質問者	通告内容
1	熊谷泰人 (会派のぞみ)	<p>1 「3 総合的に取り組む重要政策について (3)飯田市公共施設マネジメント基本方針の具現化は」に関連して</p> <p>(1) 第1段階優先検討施設の検討状況について</p> <p>① 文化・生涯学習施設ホールの現在の検討状況は</p> <p>② 今後4年間のスケジュールは</p> <p>(2) 第1段階に含まれていないスポーツ施設、体育館や運動場の検討につ</p> <p>① 第2段階に延ばすのではなく今やるべきでは</p> <p>② 国際大会やプロスポーツの拠点施設の必要性は</p> <p>③ 市民と協働によるグラウンドの芝生化は</p>
2	後藤 荘一 (日本共産党)	<p>1 「3 総合的に取り組む重要政策について (3)飯田市公共施設マネジメント基本方針の具現化は」に関連して</p> <p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業について</p> <p>① 第6期介護保険事業で飯田市は、平成28年4月から介護予防・日常生活支援総合事業(以下総合事業)を開始する。事業対象者、要支援者の人数は</p> <p>② 高齢者の日常生活動作を維持させていくためには、手厚い介護とリハビリが必要だと考えるが、サービスの低下はないか</p> <p>③ この総合事業を介護事業者へ委託するが、事業者の収入が減となる可能性が高い。総合事業実施後、飯田市としてアンケート等で事業者の運営の実態を調査すべきと考えるがどうか</p> <p>④ 今後委託先をボランティアに拡大する考えはあるか</p> <p>⑤ 介護予防重視の理念を維持する考えは</p> <p>(2) 無年金者や低年金者について</p> <p>① 介護保険や後期高齢者医療制度の保険料の納付が厳しくなっているとされる。実態を把握しているか</p> <p>② 減免の規定を無年金者、低年金者に周知する考えは</p>
3	永井 一英 (公明党)	<p>1 「3 総合的に取り組む重要政策について (3)飯田市公共施設マネジメント基本方針の具現化は」に関連して</p> <p>(1) 10年先を見据えた時、気候変動の影響に対してどう対処するか、また、人口減少の下、超高齢少子社会が進行する中であって、誰もが安心して暮らすためにはどうしたらよいか、ますますグローバル化の波をかぶる地域経済の舵取りをどうするかということは、次期総合計画策定に当たって避けて通れない課題だと考える。市長は、これらの課題に対し、どのような考え方や方針で市政経営を進めるか</p> <p>2 「3 11月14日に発表された「飯田市版総合戦略」(素案)について (3)4本の柱の基本目標と施策の展開は」に関連して</p> <p>(1) 定住人口の将来展望の数値の達成を見据えて、地域内高校卒業生の地元定着率や合計特殊出生率の目標値などを設定したか。また、設定した目標値を実現するために具体的な裏付けとなる政策は何か</p> <p>① 多子世帯に対する保育料の軽減策は、近年、国や長野県においても手厚くなってきたと聞いている。飯田市においても取り組んでいるが、今後の方向性は</p> <p>② 子どもの医療費の窓口無料化については、国も、地方自治体に対してペナルティを課す現行制度の見直しをスピード感を持って進めていると聞く。見直しがなされれば、市も同時に、子どもの医療費の窓口無料化に踏み切るべきだと考えるがどうか</p>

No.	質 問 者	通 告 内 容
4	森 本 政 人 ( 市 民 パ ワ ー )	1 「3 総合的に取り組む重要政策について (3)飯田市公共施設マネジメント基本方針の具現化は」に関連して (1) 生活困窮者を早期に把握するための仕組みづくりは (2) 支援ネットワークの状況は (3) スタッフ増員は

⑥第4回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成27年12月8,9日

No.	氏名	項目・要旨
1	福 沢 清 (会派みらい)	<p>1 認知症対策について</p> <p>(1) 飯田市における認知症の現状と今後の予想はどうか</p> <p>(2) 軽度認知障害(MCI)とはどのようなものか。また、飯田市のMCI予防の取り組みはどうか</p> <p>(3) 認知症初期集中支援チームはどのようなもので飯田市の取り組みはどうか</p> <p>2 飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例について</p> <p>(1) 昨年4月の条例施行後、ポイ捨てや不法投棄の状況はどうか</p> <p>(2) コンビニや事業所への働きかけはどうか</p>
2	古 川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の消防団について</p> <p>(1) 飯田市の消防団の現状は</p> <p>① 団員の状況は</p> <p>② 団員数の現状をどう考えるか</p> <p>③ 団員確保のためにどのような対策を行っているか</p> <p>④ 今後どのような対策を考えているか</p>
3	林 幸 次 (公明党)	<p>1 環境文化都市を目指した廃棄物処理対策について</p> <p>(1) 災害廃棄物の処理について</p> <p>① 大規模災害発生時に予想される廃棄物の処理方針は</p> <p>② 「災害廃棄物処理計画」の策定方針はどうか</p> <p>(2) 「飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」について</p> <p>① 条例施行による成果はどうか</p> <p>(3) 次期ごみ処理施設の稼働に向けて</p> <p>① 廃棄物処理のための財政負担の現状はどうか</p> <p>② ごみの減量化に対する今後の取り組み方針と課題は何か</p> <p>③ 廃プラスチックを燃焼することになるが、その分別基準はどうか</p>
4	井 坪 隆 (会派みらい)	<p>1 リニアを見据えた土地利用の方針について</p> <p>(1) 農用地に関する方針について</p> <p>① 農振農用地をいかにして確保していくか</p> <p>② 農用地の有効利用のために必要な農業振興策を、どのように講じていくか</p> <p>(2) リニア駅周辺における、都市的土地利用と農地利用の、相互の環境をいかに適切に確保するか</p> <p>(3) 用途地域の指定のない地域について、用途地域の拡大などによる土地利用の誘導を図る必要があるのではないか</p>
5	清 水 勇 (会派のぞみ)	<p>1 天竜川及び支流の自然環境維持と環境整備事業について</p> <p>(1) 天竜川護岸ではアレチウリや葛の繁殖、荒れた竹ヤブ等で景観が悪く舟下りやラフティングなど観光面で問題があると思うが市の考えは</p> <p>① 天竜橋上流・下流、左岸・右岸ともアレチウリを含め草刈や竹ヤブ整備を行っているが市の対応と補助についてはどうか</p> <p>② 松川では下伊那漁業組合や他の5団体で河川環境や生態系保全のため水辺のゴミ拾いやヨシ刈りをし、釣り体験事業や釣り人が入りやすい環境整備をしているが市のかかわりはどうか</p> <p>③ 今後、河川環境整備や生態系保全、体験学習をどのように取り組んでいく考えか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	清 水 勇	<p>(2) 天竜川上流上伊那地籍で民間企業による産業廃棄物の最終処分場の計画があるが市としてはどう捉えているか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国の基準以下ではあるが放射性物質を含む廃棄物も取り扱うとのことだ。観光面の影響も懸念されるが市の考えは</li> <li>② リニア中央新幹線・三遠南信自動車道開通を見据え観光客の誘致が必要であり、またラフティングは学生も多く体験をしている。市としての対応はどうか</li> <li>③ 舟下り会社や下伊那漁業組合から処分場施設建設反対の声があるが市の考えは</li> </ol> <p>2 企業誘致の取り組みについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 長野県が取り組もうとしている中小企業誘致へ新減税対応の優遇処置について市の対応と市独自の取り組みはどうか <ol style="list-style-type: none"> <li>① 減税制度は2018年3月までだが具体的取り組みをどのように進める考えか、また、産業団地整備計画状況はどうか</li> <li>② 県内では2014年までの10年間で158社県外から本社を移転した企業がある。飯田市の状況と今後誘致に向けた具体的取り組みはどのように考えているか</li> </ol> </li> </ol>
6	湯 澤 啓 次 (会派のぞみ)	<p>1 市民が誇る世界に一つの地域づくりに繋がるリニア駅について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) デザイン重視の考え方について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 世界に誇れる駅、駅周辺デザインの考えは</li> <li>② 多くの建築家、デザイナーが集うデザインコンペの考えは</li> </ol> </li> <li>(2) 市民参加型乗換新駅について <ol style="list-style-type: none"> <li>① JR飯田線乗換新駅の意義は</li> <li>② シームレスで接続可能な乗換新駅の可能性は</li> <li>③ 市民と建築家が共に創る乗換新駅の考えは <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 東京藝術大学協働の小淵沢駅舎建設、駅周辺まちづくりの取り組みを参考にできないか</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>(3) リニア駅周辺の地域づくりについて <ol style="list-style-type: none"> <li>① 駅周辺を暮らしと自然、歴史文化が溶けこんだ居住地区に市と市民が協働で育てる考えは</li> <li>② 大学や学輪IIDAとの協働による地域づくりは</li> </ol> </li> <li>(4) 市民参加のおもてなし(迎賓)について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 市民の手によるフラワースポット、フラワーロード、フラワー交流の考えは</li> <li>② 「迎賓館」を眺望の丘や麻績の里など近隣地区につくる考えは</li> </ol> </li> <li>(5) 整備計画などに係わる自治体、関係機関・団体がとても多い中での合意形成について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 合意形成における市長のリーダーシップは</li> </ol> </li> </ol> <p>2 リニア関連事業に伴う代替地確保について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 代替地登録制度について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 制度の目的、周知は</li> <li>② 見込まれる代替地需要、地区別・地目別の登録状況は</li> <li>③ 制度をより機能させるため民間業者の情報を共有する考えは</li> </ol> </li> <li>(2) リニア関連事業が展開する竜西土地改良区一帯について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国営事業による竜西一貫水路大規模改修に至った経緯と改修が及ぼす影響は</li> <li>② 農地の維持とリニア関連事業とのバランスは <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 竜西土地改良区、他自治体との緊密な連携は</li> <li>イ 受益者への正確な情報提供、理解の深化は</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>(3) リニア関連事業を踏まえた今後の土地利用の取り組みについて</li> </ol>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湯 澤 啓 次	① 基礎自治体へ移譲となる許可権限の生かし方、農業振興地域の見直し、目的に合った現行制度の適切運用は
7	新 井 信 一 郎 ( 会 派 の ぞ み )	1 リニア新時代を迎えるにあたり、地方創生への取り組み状況について (1) 「地方版総合戦略」策定について ① 地域経済分析システム(リーサス)の活用状況は ② 市の積み上げた実績値とリーサス値との差異は ③ 「地域創生☆政策アイデアコンテスト2015」等への参加は (2) リニア中央新幹線ベルト地帯(ナレッジ・リング)から見る、国土の内陸部の役目をどう担うか ① 省庁や国研究機関「(独)産業技術総合研究所 生命工学領域(臨界副都心センター)」の地方移転について、構想・計画などの話し合いは国、県等と行っているか ② 今後、市長の政治方針は
8	木 下 容 子 ( 市 民 パ ワ ー )	1 認知症に対する取り組みについて (1) 「第6期介護保険事業計画」における認知症施策をどう推進しているか (2) 地域包括支援センターの機能をどう強化するか (3) 住み慣れた地域の中で暮らし続けていくために何が必要か ① 県で進めている「長野県地域見守り活動」と同様の活動を飯田市では取り組んでいるか ② 若年性認知症の取り組みはどうか ③ 認知症に対する理解を深めるための啓発活動をどう進めていくか ④ 成年後見支援センターの取り組み状況は (4) 重大な徘徊事故を未然に防ぐための体制づくりをどう進めるか

(9) 本会議等傍聴状況(H27)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第1回定例会	平成27年2月25日	2
	平成27年3月5日	75
	平成27年3月6日	41
	平成27年3月20日	11
第1回臨時会	平成27年5月12日	0
第2回定例会	平成27年6月2日	4
	平成27年6月12日	12
	平成27年6月15日	41
第3回定例会	平成27年9月1日	2
	平成27年9月9日	31
	平成27年9月10日	11
	平成27年9月29日	17
第4回定例会	平成27年11月26日	1
	平成27年12月7日	3
	平成27年12月8日	14
	平成27年12月9日	9
計		274

## 2 報酬その他

### (1) 報酬

役 職	報酬月額	役 職	報酬月額
議 長	499,000 円	市 長	876,000 円
副議長	436,000 円	副市長	720,000 円
議 員	407,000 円	教育長	634,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

\*平成27年4月分から平成29年3月分まで、飯田市特別職の常勤の職員の給料月額は、上記の表に掲げる額とする。

### 報酬額の改定推移

(単位：千円)

種 別	改定年月日	S61	S62	S63	H 1	H 3	H 4	H 5	H 7	H 9	H11
		4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	10.1	7.1	4.1
議 長		331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副 議 長		278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議 員		259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

### (2) 期末手当

6 月期支給額 報酬×1.45×150/100

12月期支給額 報酬×1.45×165/100

※ 平成27年4月から平成29年3月までの間に支給される期末手当は、議長90,000円、副議長78,000円、議員72,000円をそれぞれ支給すべき額から減ずる。

### (3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

### (4) 研修旅費

議 員 1 人 当 り 年 額	
常 任 委 員 会	実 費
議 会 運 営 委 員 会	実 費
海 外 研 修 視 察	所要額の 3 / 4 (交付金)

(5) 政務活動費

議員 1 人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額

(平成3年4月1日改正)

旅費の区分 職務の区分	車 賃		日 当	宿 泊 料		食 卓 一 夜 に つ き 料
	交通機関 のある場 合	交通機関の ない場合 (1キロメ ートルにつ き)		県 内	県 外	
議員、教育委員、選挙管理委員、公平委員、監査委員、農業委員、固定資産評価審査委員、選挙長	実 費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

3 定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回(4月、7月、10月及び1月(定例会終了の翌月)。このほか臨時号)

ウ 発行部数 各34,000部

エ 印刷 オフセット印刷(A4版 1回平均10ページ)160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回(例年6月発行)

イ 発行部数 150部

4 市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回(次回定例会の招集日までに発行)

イ 発行部数 35部

ウ 印刷 オフセット印刷(A4版)

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

(3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

## 5 議会事務局の事務分掌

### (1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

### (2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

### (3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

#### IV 市議会のあゆみ（平成6年から）

年	議会の動き
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会だより100号記念号発行</li> <li>・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> <li>・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決</li> <li>・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決</li> <li>・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置</li> </ul>
平成7年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出</li> <li>・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付</li> <li>・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった</li> <li>・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決</li> </ul>
平成8年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決</li> <li>・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決</li> <li>・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決</li> <li>・「病原性大腸菌0157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成9年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に）</li> <li>・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出</li> <li>・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置</li> <li>・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み</li> <li>・ 「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決</li> <li>・ 第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開</li> <li>・ 「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ</li> </ul>
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告</li> <li>・ 第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出</li> <li>・ ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決</li> <li>・ 「公共下水道受益者負担金改定」を可決。（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ）</li> <li>・ 「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置</li> </ul>
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告</li> <li>・ 介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決</li> <li>・ 国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決</li> <li>・ 公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決</li> <li>・ 市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生）</li> <li>・ 第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出</li> <li>・ 飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決</li> <li>・ 水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決</li> <li>・ アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択</li> </ul>
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決</li> <li>・ 暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ)</li> <li>・「飯田市議会あり方研究会」を発足</li> <li>・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決</li> <li>・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)</li> </ul>
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出</li> <li>・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置</li> <li>・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正)</li> <li>・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置)</li> <li>・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)</li> </ul>
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置</li> <li>・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出</li> <li>・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について)</li> <li>・市議会議員補欠選挙で2人選出</li> </ul>
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決</li> <li>・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出</li> <li>・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置</li> <li>・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書)</li> <li>・「個人情報保護条例」を可決</li> <li>・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更)</li> <li>・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会本会議の映像生中継をスタート</li> <li>・ 「男女共同参画推進条例」を可決</li> </ul>
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例）</li> <li>・ 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決</li> <li>・ 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置</li> <li>・ 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決</li> <li>・ 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決</li> </ul>
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認</li> <li>・ 「飯田市土地利用基本条例」を可決</li> <li>・ 「環境文化都市宣言」を可決</li> <li>・ 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出</li> <li>・ 議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定</li> <li>・ 「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞。（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）</li> </ul>
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中）</li> <li>・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ）</li> <li>・ 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定）</li> <li>・ 議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査</li> <li>・ 決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定）</li> <li>・ 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承）</li> <li>・ 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決</li> <li>・ 「土地利用計画特別委員会」を廃止</li> <li>・ 市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に）</li> <li>・ 第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出</li> <li>・ 「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決</li> <li>・ 市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）</li> </ul>
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置</li> <li>・ 「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化）</li> <li>・ 年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置</li> <li>・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ）</li> <li>・ 第3回議会報告会を開催（市民469人が参加）</li> <li>・ 「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）</li> </ul>
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決</li> <li>・ 第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出</li> <li>・ 東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決</li> <li>・ 「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額）</li> <li>・ 損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ</li> <li>・ 「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に）</li> <li>・ 第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）</li> </ul>
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置</li> <li>・ 議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始</li> <li>・ 新庁舎実施設計を了承</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される）</li> <li>・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）</li> </ul>
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率58・3%議員数23人）</li> <li>・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出</li> <li>・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする</li> <li>・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置</li> <li>・委員会審議に於いて初の「議員間自由討議」を実施</li> <li>・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言）</li> <li>・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決</li> <li>・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言</li> <li>・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）</li> </ul>
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言</li> <li>・天竜峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認</li> <li>・「手話言語法（仮称）等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出</li> <li>・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加）</li> <li>・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催</li> </ul>
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校）</li> <li>・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催、第2回定例会から淡路結びの水引を設置</li> <li>・全議員による政策討論会を経て2項目を提言</li> <li>・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出</li> <li>・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決</li> <li>・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出</li> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ）</li> <li>・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> <li>・第8回議会報告会を開催（市民498人が参加）</li> <li>・新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意</li> </ul>

飯田市議会要覧

参 考 資 料

## 平成28年度 飯田市各会計予算の総額

会 計 名		予 算 額		比 較	
		28年度 (A)	27年度 (B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
一 般 会 計		44,300,000	43,460,000	840,000	1.9
国民健康保険特別会計	事業勘定	11,266,000	11,326,900	△ 60,900	△ 0.5
	直診勘定	5,300	4,600	700	15.2
後期高齢者医療特別会計		1,272,000	1,238,000	34,000	2.7
介護保険特別会計		10,673,400	10,498,400	175,000	1.7
地方卸売市場事業特別会計		20,200	15,000	5,200	34.7
駐車場事業特別会計		71,500	69,700	1,800	2.6
墓地事業特別会計		23,700	15,500	8,200	52.9
簡易水道事業特別会計		150,000	141,900	8,100	5.7
介護老人保健施設事業特別会計		693,000	682,400	10,600	1.6
ケーブルテレビ放送事業特別会計		128,800	129,800	△ 1,000	△ 0.8
病院事業会計		15,521,502	14,550,184	971,318	6.7
水道事業会計		3,294,600	3,009,200	285,400	9.5
下水道事業会計		6,860,900	4,343,900	2,517,000	57.9
特別会計の計		49,980,902	46,025,484	3,955,418	8.6
計		94,280,902	89,485,484	4,795,418	5.4

(単位:千円、%)

主 な 内 容		
		一般
保険給付費 6,703,997 後期高齢者支援金等 1,281,842 介護納付金 488,980 共同事業拠出金 2,463,853 保健事業費 84,859		国保
三穂診療所、上村歯科診療所		
後期高齢者医療広域連合納付金 1,235,256		後高
保険給付費 10,156,192 地域支援事業費 303,418		介護
卸売市場費 15,915		市場
中央、本町、飯田駅、駅西、扇町各駐車場の管理運営 66,243		駐車
霊園の管理運営 8,072 西部霊園造成 15,360		墓地
遠山簡易水道の管理運営 70,446 施設整備 21,000		簡水
施設管理費 614,545 施設事業費 78,455		老施
竜東維持管理費 62,431 遠山郷維持管理費 20,086 公債費 45,044		ケテ
収益的収入 12,435,000 収益的支出 12,708,000 資本的収入 1,330,500 資本的支出 2,813,502		病院
収益的収入 2,120,400 収益的支出 1,950,000 資本的収入 523,600 資本的支出 1,344,600		水道
収益的収入 4,776,900 収益的支出 4,176,300 資本的収入 1,274,700 資本的支出 2,684,600		下水
		特会
		計

平成28年度 一般会計 歳入 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減	
	28年度(A)	27年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 市 税	12,942,000	12,898,000	29.2	44,000	0.3
2 地 方 譲 与 税	415,000	422,000	0.9	△ 7,000	△ 1.7
3 利 子 割 交 付 金	12,000	21,000	0.0	△ 9,000	△ 42.9
4 配 当 割 交 付 金	61,000	38,000	0.1	23,000	60.5
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	3,000	3,000	0.0	0	0.0
6 地 方 消 費 税 交 付 金	2,255,000	1,940,000	5.1	315,000	16.2
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	84,000	57,000	0.2	27,000	47.4
8 地 方 特 例 交 付 金	46,000	41,000	0.1	5,000	12.2
9 地 方 交 付 税	11,250,000	11,071,000	25.4	179,000	1.6
10 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	18,000	18,000	0.0	0	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	810,280	853,414	1.8	△ 43,134	△ 5.1
12 使 用 料 及 び 手 数 料	540,754	556,162	1.2	△ 15,408	△ 2.8
13 国 庫 支 出 金	4,910,032	4,794,358	11.1	115,674	2.4
14 県 支 出 金	2,777,578	2,738,490	6.3	39,088	1.4
15 財 産 収 入	34,511	32,371	0.1	2,140	6.6
16 寄 附 金	106,000	16,000	0.2	90,000	562.5
17 繰 入 金	1,018,760	860,681	2.3	158,079	18.4
18 繰 越 金	500,000	500,000	1.1	0	0.0
19 諸 収 入	2,353,385	2,341,424	5.3	11,961	0.5
20 市 債	4,162,700	4,258,100	9.4	△ 95,400	△ 2.2
合 計	44,300,000	43,460,000	100.0	840,000	1.9

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

単位:千円

主 内 容	増減(A)-(B)の主な内容	
市民税 5,687,000(個人 4,723,000 法人 964,000) 固定資産税 5,590,000 軽自動車税 320,000 市たばこ税 658,000 入湯税 4,000 都市計画税 683,000	個人現年 14,000(0.3%) 法人現年 △61,000(△6.0%) 固定現年 61,000(1.2%) 軽自現年 51,000(19.0%)	市税
地方揮発油譲与税 126,000 自動車重量譲与税 289,000	揮発油譲与税 2,000 重量譲与税 △9,000	地譲
		利子
		配当
		株式
※ 地方消費税率の引上げによる増収分900,675は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳:社会福祉 427,999、社会保険 274,570、保健衛生 198,106)		消費
		自取
		地特
普通交付税 10,350,000 特別交付税 900,000	普通交付税 129,000 特別交付税 50,000	地交
		交通
民生費負担金 716,745(保育料 632,507 老人措置 61,148) 農林費負担金 50,060(非補助土地改良 50,000)	戸籍システム共同利用負担金 8,618 道路改良事業負担金(広域連合分) △28,800	分負
住宅使用料 147,615 ごみ処理手数料 137,827 戸籍等手数料 47,643 休日夜間急患診療所使用料 45,043 道路河川占用料 38,700 文化会館使用料 20,100 斎苑使用料 18,553 体育施設使用料 13,996 地域振興住宅使用料 13,376 地区公民館使用料 9,042	地域振興住宅使用料 3,019 斎苑使用料 △6,149 住宅使用料 △5,815 ごみ処理手数料 △4,812 休日夜間急患診療所使用料 △1,343	使手
負担金 民生費 3,654,204(児童手当 1,276,626 障害者 893,511 生活保護 489,456 民間保育所 609,731 ひとり親家庭 143,338) 衛生費 69,500(保険基盤安定)	民間保育所等整備 133,027 文化財保護 114,544 道路改良 63,263 住宅建設 35,424 天龍峡整備 14,315 臨時福祉給付金 △152,921 社会保障・税番号制度 △58,124 子育て世帯臨時特例給付金 △54,223 地域介護・福祉空間整備 △26,037 公園整備 △13,500 児童手当負担金 △11,912	国庫
補助金 総務費 19,962(社会保障・税番号制度) 民生費 266,139(民間保育所整備 133,027 地域生活支援 57,067 衛生費 11,929(環境保全 7,838 保健衛生 2,647) 商工費 54,879(天龍峡 53,979 市街地 900) 土木費 641,630(道路 364,020 住宅 165,157 橋りょう 96,250) 消防費 4,620(災害対策) 教育費 166,100(文化財保護 124,944 文化芸術振興 26,000)	地域医療介護総合確保基金補助金 155,830 延長保育促進事業補助金 44,449 障害者自立支援給付費負担金 38,598 保険基盤安定負担金 38,260 参議院議員選挙委託金 36,151 老人福祉施設等整備事業補助金 33,288 鳥獣被害防止総合対策交付金 29,310 子育て支援対策臨時特例交付金 △188,525 6次産業化ネットワーク活動交付金 △70,868 民間保育所負担金 △46,515 放課後児童健全育成事業補助金 △42,750	県費
委託金 総務費 210,175(県民税 160,860)		
財産貸付料 22,046 基金運用収入 7,009 不動産売払収入 5,002	財産貸付料 1,299 基金運用収入 900	財産
ふるさと寄附金 100,000 奨学資金 6,000	ふるさと寄附金 90,000	寄附
財調 500,000 減債 323,000 公共 0 ふるさと 6,000 社会福祉施設 85,736 庁舎 43,373 過疎 32,755 地域雇用 20,781 財産区 7,115	減債 138,000 ふるさと △9,000 社会福祉施設 85,736 過疎 13,203 地域雇用 1,866 庁舎 △73,436 財産区 1,710	繰入
		繰越
貸付金元利収入 1,719,320(商工制度資金 1,500,000 生活資金 170,000) 雑入 493,558 受託事業収入 135,957	中央新幹線用地取得事務受託事業収入 49,512 古紙売却代 10,530	諸入
合併特例債・・・719,300 庁舎 421,700 道路 133,300 観光 121,500 社会教育施設 42,800 過疎対策事業債・・・396,300 自治振興 237,700 道路 51,600 公共交通体系 34,400 災害対策 32,400 林道 22,800 教育 14,400 老人福祉 1,900 観光 1,100 その他・・・3,047,100 土木 659,400 教育 169,600 民生 274,700 農林 100,800 総務 99,100 臨時財政対策債 1,635,000	老人福祉施設整備 270,200 自治振興センター 226,900 道路新設改良 128,600 水道事業 50,900 庁舎整備 △669,800 地域振興基金 △216,100 社会体育施設整備 △47,800 臨時財政対策債 △33,000	市債

平成28年度 一般会計 目的別歳出 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の構成比	増 減	
	28年度 (A)	27年度 (B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 議 会 費	278,822	305,175	0.6	△ 26,353	△ 8.6
2 総 務 費	4,804,349	5,203,231	10.8	△ 398,882	△ 7.7
3 民 生 費	14,653,871	14,139,168	33.1	514,703	3.6
4 衛 生 費	5,261,386	4,853,203	11.9	408,183	8.4
5 労 働 費	270,281	268,744	0.6	1,537	0.6
6 農 林 水 産 業 費	1,291,041	1,285,575	2.9	5,466	0.4
7 商 工 費	2,538,782	2,439,469	5.7	99,313	4.1
8 土 木 費	5,104,410	4,835,550	11.5	268,860	5.6
9 消 防 費	1,364,445	1,311,889	3.1	52,556	4.0
10 教 育 費	3,747,103	3,630,571	8.5	116,532	3.2
11 災 害 復 旧 費	4,300	4,300	0.0	0	0.0
12 公 債 費	4,941,110	4,915,525	11.2	25,585	0.5
13 諸 支 出 金	100	227,600	0.0	△ 227,500	△ 100.0
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合 計	44,300,000	43,460,000	100.0	840,000	1.9

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

単位:千円

主 内 容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 278,822	議員人件費 △24,999 事務局職員人件費 △843	議会
庁舎整備 448,075 自治振興センター耐震化整備 237,708 総務一般管理 211,205 住民情報システム管理 132,536 地域振興住宅整備 110,200 課税事務委託 105,004 地域自治支援事業 104,200 リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金積立 100,000 市民バス等運行業務 98,917 広域負担金 96,323 自治振興センター管理 88,059 ふるさと飯田応援隊募集事業 54,310 ケーブルテレビ特会繰出 45,100 賦課費 40,292	自治振興センター耐震化整備 226,908 総務一般管理 51,699 ふるさと飯田応援隊募集 48,813 リニア駅周辺整備 36,818 参議院議員選挙 36,288 市長選挙 34,282 課税事務委託 33,911 庁舎整備 △748,620 臨時統計調査 △36,835 県議会議員選挙 △24,872 社会保障・税番号制度 △24,753	総務
民間保育所運営 1,930,902 児童手当 1,832,675 介護保険特会繰出 1,529,482 後期高齢者医療関係 1,050,000 総合支援介護給付 1,012,843 総合支援訓練等給付 661,321 生活保護措置 652,608 児童扶養手当 415,775 特別養護老人ホーム飯田荘建設 391,824 養護老人ホーム措置 345,955 後期高齢者医療特会繰出 304,467 障害者医療費給付 280,283 民間保育所施設整備 278,851 障害児通所支援 267,632 公立保育所保育補助員雇用 242,308	特別養護老人ホーム飯田荘建設 391,824 特別養護老人ホーム等建設補助 197,107 総合支援介護給付 92,959 総合支援訓練等給付 57,087 子ども医療費給付 23,025 臨時福祉給付金給付 △152,921 民間保育所施設整備 △60,495 子育て世帯臨時特例給付金給付 △54,223	民生
病院事業会計負担金 1,315,500 広域負担金(焼却場) 933,343 国保特会繰出 706,907 簡易水道費 428,697 ごみ収集処理 286,390 予防接種 160,714 妊婦健診 108,792 広域負担金(竜水園) 97,416 簡水特会繰出 90,100 高齢者予防接種 68,488 一般廃棄物最終処分場管理 66,233 がん検診 65,924 休日夜間急患診療所運営 50,795 容器包装リサイクル 50,782	広域負担金(焼却場) 257,640 国保特会繰出 149,605 簡易水道費 47,522 病院事業会計負担金 17,370 新エネルギー推進リーディング 4,199 がん検診 △36,592 保健衛生推進 △16,286 予防接種 △11,867 斎苑管理 △3,757 高齢者予防接種 △3,512	衛生
勤労者協調融資 170,000 桐林勤労者福祉センター管理 23,192 勤労者福祉センター管理 20,896 労働諸費 12,763	雇用対策 1,055 人材誘導 811 桐林勤労者福祉センター管理 △637	労働
林道改良・舗装 241,304 農業基盤整備資金償還補助 137,129 市単土地改良 104,032 農作物被害対策 73,922 非補助土地改良 50,000 中山間地域等直接支払 36,894 意欲ある農業者支援 35,324 新規就農者支援 27,188 農業委員会活動推進 21,453 多面的機能支払交付金 20,270 林道管理 19,395 国土調査 18,942 経営所得安定対策直接支払推進 16,645	林道改良・舗装 66,532 農作物被害対策 18,209 新規就農者支援 12,188 市単土地改良 10,032 多面的機能支払交付金 8,950 分収造林 7,772 農産物新マーケットチャレンジ 3,490 6次産業化推進 △70,868 農業基盤整備資金償還補助 △21,673 中山間地域等直接支払 △13,723	農林
中小企業金融対策 1,610,000 天龍峡整備(補助)126,767 企業立地促進 70,000 天竜峡活性化 69,369 産業用地整備 45,988 地場産業等振興 43,982 上村観光施設管理 43,406 南信濃観光施設管理 36,034 観光施設管理 29,372 商工会議所活動運営補助 28,119	天龍峡整備(補助) 33,652 天龍峡活性化 28,881 工業振興一般 21,478 企業立地促進 20,000 遠山郷観光戦略プロジェクト 12,068 観光まつり振興 △15,300 上村観光施設管理 △11,379	商工
下水道特会繰出 1,933,100 道路改良(補助) 664,261 道路維持補修 540,641 公営住宅整備 359,331 道路改良(単独) 357,056 橋りょう長寿命化修繕 179,628 住宅管理一般 74,826 都市公園維持管理 63,120 河川改修 62,775 中央新幹線建設関連 49,512 動物園管理 46,283 潰地登記・道路台帳補正業務等委託 31,523 公園整備(補助) 30,400 県街路事業地元負担金 29,800	道路改良(補助) 90,016 公営住宅整備 63,232 中央新幹線建設関連 49,512 道路改良(単独) 40,801 道路維持補修 38,859 住宅管理一般 25,966 県街路事業地元負担金 6,800 公園整備(補助) △30,000 橋りょう長寿命化修繕 △ 8,320	土木
広域負担金(消防) 972,689 消防団運営 183,320 災害対策一般 64,903 消防団詰所整備 33,566	広域負担金(消防) 53,170 消防団詰所整備 24,114 災害対策一般 21,574 消防体制強化整備 △49,961	消防
学校給食 379,031 学校管理一般 146,232 恒川遺跡群保存活用 163,160 学校教育振興 157,829 体育施設管理 150,657 公民館管理・運営 120,985 学校大規模改修 117,600 学校教育補助員等雇用 116,114 美術博物館管理 87,047 情報通信技術活用教育推進 82,834 学校施設改修 73,638 特別支援教育支援 65,854 公民館等耐震化整備 52,659 図書館管理・運営 46,921	恒川遺跡群保存活用 140,163 公民館等耐震化整備 52,659 学校大規模改修 17,600 情報通信技術活用教育推進 15,113 埋蔵文化財調査 11,185 体育施設改修 △55,798 非構造部材耐震化 △35,064	教育
		災害
長期債元金 4,610,132 長期債利子 328,978 一時借入金利子 2,000	長期債元金 118,261 長期債利子 △92,676	公債
学術研究振興基金積立 100	地域振興基金積立 △227,500	諸支
		予備

平成28年度 一般会計 性質別歳出 (主な増減内訳)

	28年度予算額		27年度予算額		増減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人件費	5,868,269	13.3	5,978,971	13.8	△ 110,702	△ 1.9
2 扶助費	8,083,055	18.3	7,932,625	18.3	150,430	1.9
3 公債費	4,941,110	11.2	4,915,525	11.3	25,585	0.5
小計	18,892,434	42.8	18,827,121	43.4	65,313	0.3
4 物件費	5,935,021	13.4	5,842,706	13.4	92,315	1.6
5 維持補修費	639,935	1.4	623,043	1.4	16,892	2.7
6 補助費等	7,501,834	16.9	5,125,130	11.8	2,376,704	46.4
7 積立金	100,100	0.2	327,600	0.8	△ 227,500	△ 69.4
8 投資・出資金	544,953	1.2	560,785	1.3	△ 15,832	△ 2.8
9 貸付金	1,731,660	3.9	1,733,573	4.0	△ 1,913	△ 0.1
10 繰出金	3,895,905	8.8	5,648,368	13.0	△ 1,752,463	△ 31.0
11 投資的経費	5,018,158	11.3	4,731,674	10.9	286,484	6.1
補助	1,950,692	4.4	1,577,928	3.6	372,764	23.6
単独	3,067,466	6.9	3,153,746	7.3	△ 86,280	△ 2.7
普通建設費	5,013,858	11.3	4,727,374	10.9	286,484	6.1
補助	1,950,692	4.4	1,577,928	3.6	372,764	23.6
単独	3,063,166	6.9	3,149,446	7.2	△ 86,280	△ 2.7
災害復旧費	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
補助	0	0.0	0	0.0	0	0.0
単独	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
12 予備費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合計	44,300,000	100.0	43,460,000	100.0	840,000	1.9

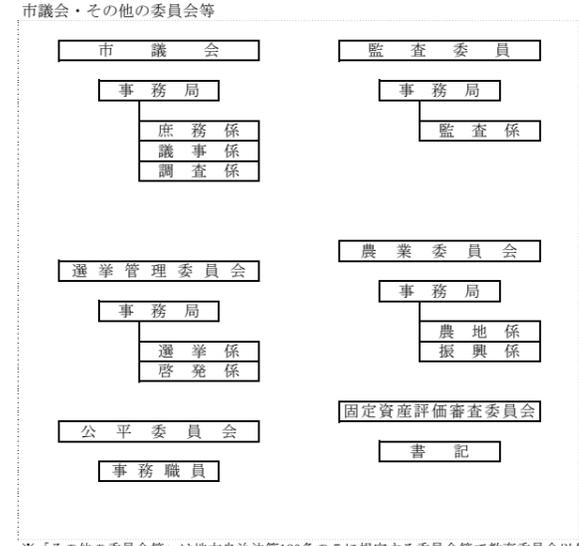
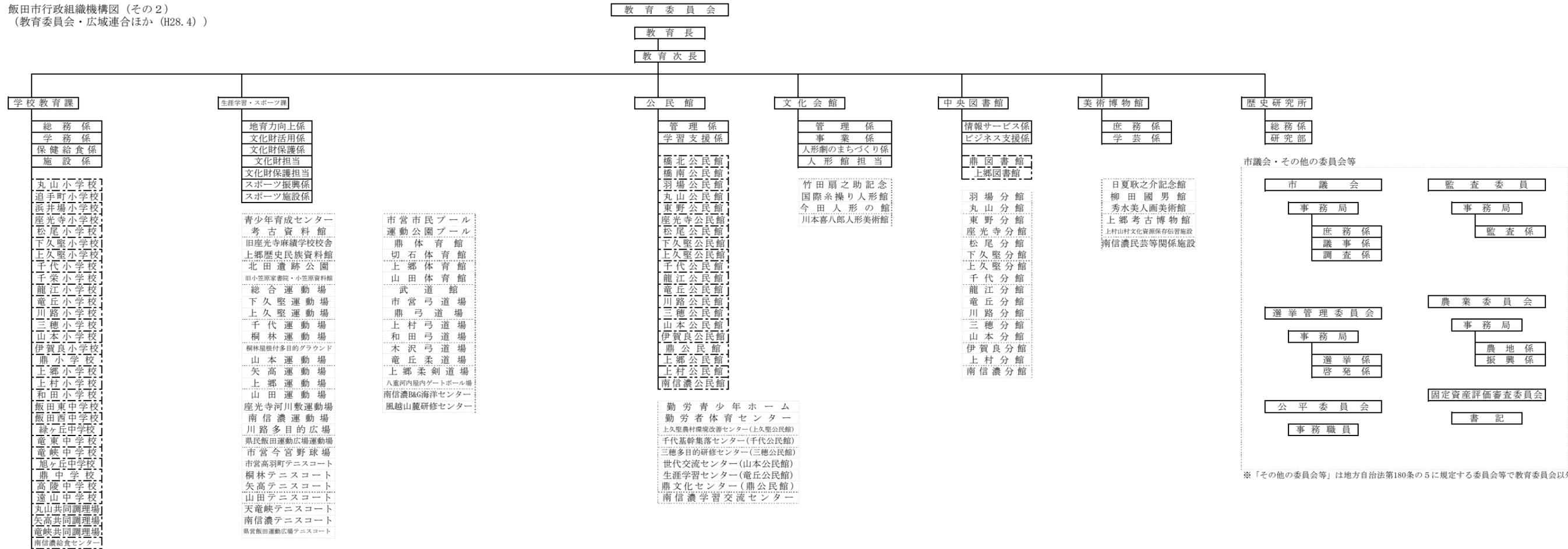
※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

単位：千円

主たる増減の内訳		
職員給与 17,072 退職手当 △51,615 市町村共済負担金 △49,851 臨時統計調査委員報酬 △27,361		人件
障害者支援給付 141,712 子ども医療費給付 23,025 住宅支援給付金事業 △4,050		扶助
元金 118,261 利子 △92,676		公債
		小計
公営住宅指定管理業務 60,621 ポリ塩化ビフェニル(PCB)処理経費 52,527 固定資産評価替事業 51,422 リニア駅周辺整備事業 32,347 ふるさと飯田応援隊募集事業 12,802 臨時福祉給付金事業 △32,345 総合運動場備品 △27,769 社会保障・税番号制度 △27,369 課税事務用航空写真 △21,459 庁舎移転 △13,543		物件
雪寒指定路線除雪作業 33,510 道路補修事業 5,625 河川維持管理事業 1,056 公営住宅修繕 △34,182		維持
下水道事業補助金 1,848,753 広域連合負担金(焼却場) 257,640 特別養護老人ホーム等建設補助金 197,107 病院事業負担金 87,609 下水道事業負担金 84,347 広域消防負担金 53,170 ふるさと飯田応援隊募集事業 36,011 臨時福祉給付金 △120,000 6次産業化推進事業 △70,868 子育て臨時特例給付金 △42,900 社会保障・税番号制度 △36,421 飯田下伊那診療情報連携システム構築事業 △16,089		補助
地域振興基金積立金 △227,500		積立
水道事業出資金 54,407 病院事業出資金 △70,239		投資
奨学金貸付金 △1,920		貸付
国民健康保険 149,605 介護保険 19,332 後期高齢者医療 10,739 介護老人保健施設 844 地方卸売市場 317 下水道事業 △1,931,100 簡易水道 △2,200		繰出
		投資
		補助
		単独
		普建
恒川遺跡群保存活用事業 143,680 社会資本整備(道路) 131,000 公営住宅整備 73,349 林道改良事業 46,995 社会資本整備(市街地) 40,000 社会資本整備(天龍峡) 32,383 道整備交付金事業 30,000 防災・安全交付金(道路) △71,140 民間保育所施設整備事業 △60,495 消防体制強化整備(補助) △26,743 特別養護老人ホーム飯田荘建設 391,824 自治振興センター耐震化整備事業 226,908 公民館等耐震化整備 52,659 中央新幹線建設用地取得事務経費 49,512 防災情報提供機器設置 32,400 天龍峡活性化事業 29,111 庁舎整備事業 △740,724 非構造部材耐震化 △35,064 幹線道路改良事業 △30,100 体育施設改修 △27,232 消防体制強化整備(単独) △23,131 集会施設整備事業 △14,289		補助
		単独
		災害
		補助
		単独
		予備

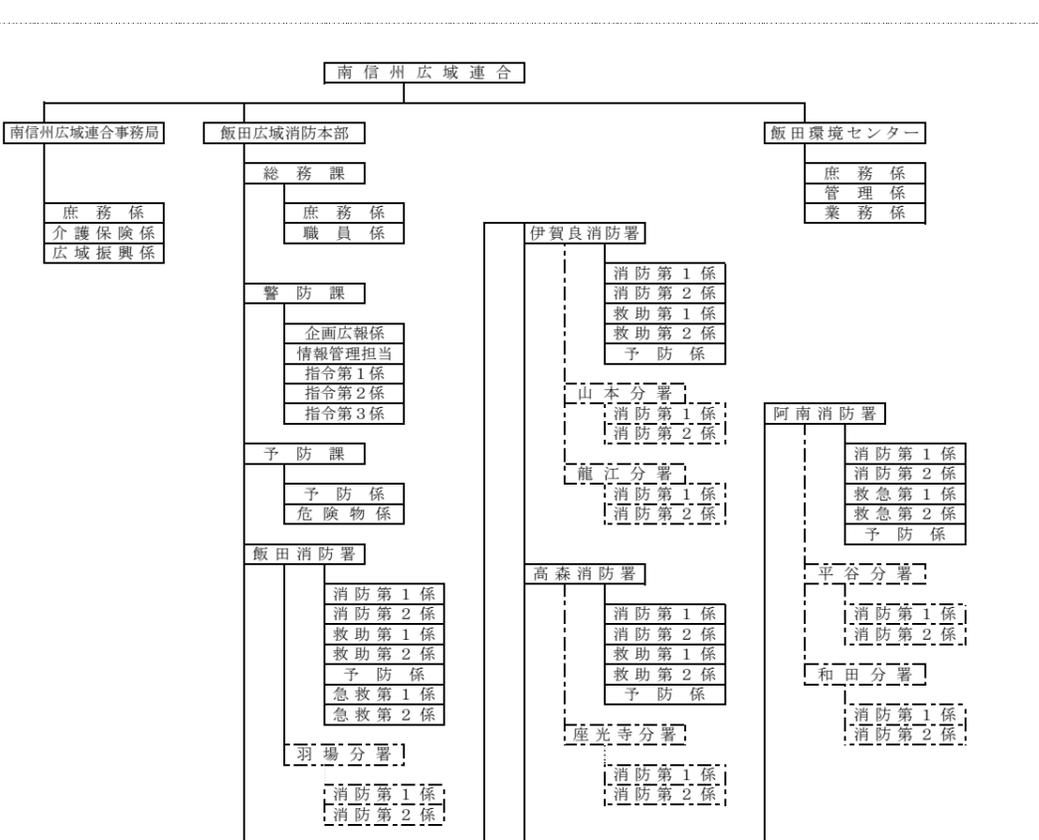
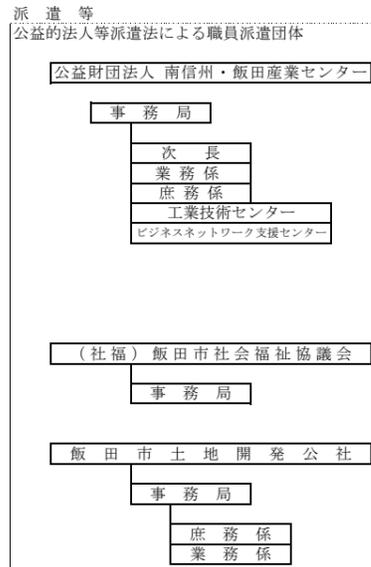


飯田市行政組織機構図（その2）  
（教育委員会・広域連合ほか（H28.4））



※「その他の委員会等」は地方自治法第180条の5に規定する委員会等で教育委員会以外のもの。

- 橋南児童クラブ
- 浜井児童クラブ
- 松尾児童クラブ
- 下久堅児童クラブ
- 上久堅児童クラブ
- 龍江児童クラブ
- 川路児童クラブ
- 三穂児童クラブ
- 切石児童クラブ
- 伊賀良児童クラブ
- 上郷児童クラブ
- 丸山児童センター
- 座光寺児童センター
- 竜丘児童センター
- 山本児童センター
- 丸山児童センター
- 座光寺児童センター
- 竜丘児童センター
- 山本児童センター
- 別府児童館
- 高松児童館
- 大平宿泊訓練施設



(飯田市関係職員数)	
○ 飯田市	正規 1,527 人
○ 公益的法人等派遣法による派遣	
公益財団法人南信州・飯田産業センター	2 人
社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	2 人
飯田市土地開発公社	5 人
○ 地方自治法による派遣	
長野県後期高齢者医療広域連合	1 人
南相馬市	1 人
○ その他	
飯田市職員労働組合	2 人
自治労長野県本部	1 人
<b>飯田市職員計</b>	<b>1,541 人</b>
(広域連合への派遣職員数)	
南信州広域連合事務局	7 人
飯田環境センター	2 人
<b>広域連合への派遣職員計</b>	<b>9 人</b>

注1 飯田市の組織機構は、飯田市組織規則に基づく。  
 注2 職員数は、正規職員数のみ、臨時・非常勤職員を含まない。  
 注3 職員数は、兼務職員を含まない。  
 注4 職員数は、市長、副市長、教育長他特別職を含まない。  
 注5 職員数は、他団体からの出向職員を含む。

職員の定数

(平成28年4月1日現在)

区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
市長の事務部局の職員	810	676
議会の事務部局の職員	9	6
教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	158	130
選挙管理委員会の事務部局の職員	5	3
公平委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
監査委員の事務部局の職員	4	3
農業委員会の事務部局の職員	25 (市長部局職員兼務14)	5
固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
病院事業の職員	710	683
水道事業の職員	55	21
小 計	1,780	1,527
市長部局付派遣職員		
	(財)南信州・飯田産業センター	2
	(社福)飯田市社会福祉協議会	2
	飯田市土地開発公社	5
	長野県後期高齢者医療広域連合	1
	南相馬市	1
	飯田市職員労働組合専従・自治労長野県本部専従	3
	小 計	14
派遣職員(自治法派遣)		
	南信州広域連合事務局	7
	飯田広域消防本部	-
	飯田環境センター	2
	小 計	9
合 計		1,550

## 都市宣言

### 1 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年6月26日

飯 田 市 議 会

### 2 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年6月29日

昭和61年6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

### 3 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

### 4 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

### 5 シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなお一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

## 6 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の本質にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

## 7 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

## 8 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化にまつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

## 9 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合ってあらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

## 10 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

## 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

### 記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課 扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

## 友好都市締結

### 盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県  
飯田市  
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県  
シャルルヴィル・メジエール市  
市長 ロジェ・マス

飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市制業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域市町村圏協議会発足
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田市・鼎町・上郷町消防組合本部開設
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成 龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町を合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成 丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジュール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町を合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足 オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9. 7	エコタウン地域に指定される
8	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路会議
12	J Aみなみ信州発足
平成10. 2	市民バス運行開始
2	長野オリンピック冬季競技大会開催
3	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
3	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
4	天竜川治水対策・龍江側工事完成
6	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
8	第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェステバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーヰチ氏を迎え開催
平成11. 3	市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告)
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
4	南信州広域連合発足
7	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12. 1	I S O 14001認証取得
3	市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
4	介護保険制度がスタート
7	丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13. 1	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
3	政務調査費の交付に関する条例の制定
4	市議会改選
7	橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
8	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだFM開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ！ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路1工区(飯田山本IC～天竜峡IC)が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場
	人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催
	アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元の旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代(最終処分場)竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通(上郷丹保地区～高森町下市田地区) 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置(市役所内)
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009(第9回)で飯田市が総合2位(昨年3位)
7	集中豪雨による土砂災害(南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害)
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市長村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23.	1 飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
	3 東日本大震災発生。避難者の受け入れ
	3 飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
	5 国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23.	6 三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催 日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
	9 フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
	9 菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
	12 第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24.	4 飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
	5 エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
	7 第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
	8 ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
	11 市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25.	3 東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点から ラウンドアバウト方式に変更して整備
	4 「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な 地域づくりに関する条例が施行
	4 市役所新庁舎建設工事着工
	8 人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
	9 リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26.	2 観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
	3 恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
	6 南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
	10 航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事実施計画が認可される
	12 市役所新庁舎完成
平成27.	1 市役所新庁舎開庁し業務を開始
	2 長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催

- 3 菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
- 4 パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
- 4 リニア中央新幹線中心線測量開始
- 7 こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
- 9 飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジエール市を訪問し、A V I A M A（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
- 10 マイナンバー制度が始まる
- 10 国道152号小道木バイパスが開通

# 飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

## 目次

前文

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 自治の基本原則(第4条—第7条)

第3章 市民等の役割(第8条—第10条)

第4章 地域自治(第11条—第15条)

第5章 市政運営(第16条—第21条)

第6章 市議会の役割(第22条—第27条)

第7章 市の執行機関の役割(第28条—第34条)

第8章 住民投票(第35条)

第9章 条例の見直し(第36条)

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

### (条例の位置付け)

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

(用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

## 第2章 自治の基本原則

(自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

(市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

(情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

(参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

## 第3章 市民等の役割

(市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べるすることができます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

#### (市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

#### (事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

### 第4章 地域自治

#### (市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

#### (地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が活かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

#### (地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

#### (まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

#### (自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織(地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。)の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

### 第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報の保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

## 第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第23条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

- 2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
- 3 市議会は、議会報告会の開催等を通じ、前2項に規定することの実現に努めます。

(市議会議長の責務)

- 第24条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
- 2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

- 第25条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
- 2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
  - 3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

- 第26条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
- 2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

- 第27条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
- 2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第7章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

- 第28条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
- 2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

- 第29条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

- 第30条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
- 2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第31条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第32条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第33条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第34条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第8章 住民投票

(住民投票)

第35条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

## 第9章 条例の見直し

(条例の見直し)

第36条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第1条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行します。

附 則(平成23年11月30日条例第25号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成25年3月25日条例第2号)

この条例は、公布の日から施行する。

# 飯田市市歌

堀内 敬三 作曲  
宮脇 至 作詞  
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峯にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲く美し町

協す力にいぶきも新た

のびよ久遠に我らが飯田

# 飯田市歌

犬塚 利国 作詞  
飯田 景広 編曲

一、山紫に水明らかに

生業栄え人皆和して

希望の光 遍く充てり

げに飯田市の輝く天地

二、南信濃の陽は照り映えて

四季行楽に名を負うところ

観光都市の誉れも添ひて

げに飯田市の輝く前途

三、落葉に残す千古の偉業

烈婦偲ぶ 不断の煙り

大儒の松風 今なお高し

げに飯田市の輝く誇り

四、ああ天恵に幸負う我等

協同進取の旗なびかせて

目指すは彼方 久遠の理想

げに飯田市の輝く使命

飯田市議会要覧 平成28年度版

発行日 平成28年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局

〒395-8501

長野県飯田市大久保町2534番地

TEL 0265-22-4523（直通）0265-22-4511（内線5611）

FAX 0265-53-8821

e-mail [igikai@city.iida.nagano.jp](mailto:igikai@city.iida.nagano.jp)

URL <http://www.city.iida.lg.jp/>